

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

第34号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392-8548 諏訪市清水1-10-1 編集：会報編集委員会 第75回生(昭和44年入学)

心は駆ける五大洲 理想の岸は遠くとも

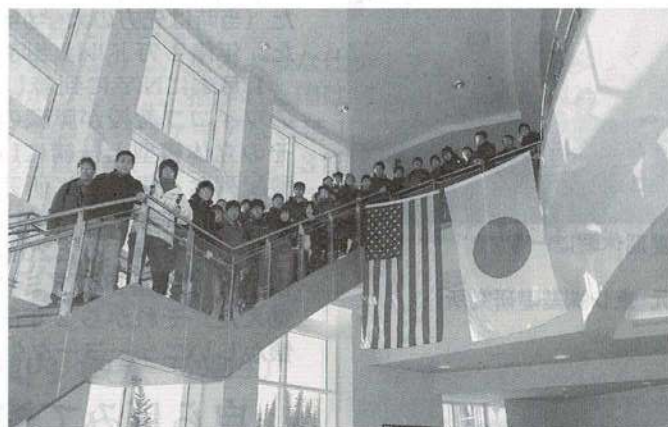
～海外に活躍する清陵OB・OGからのメッセージ～

清陵の頃、第一校歌7番のこの歌詞に入ると、世界に勇躍する自分の姿が目に見え、夢見心地になって謳ったものだった。続く「それサクセンの林中に～」と足を踏み鳴らして謳歌すると、胸がたぎり、云い難い高揚感を覚えた。その理想の岸を引き寄せ、世界への夢を現実のものとした多くの清陵OBが国際社会の様々な分野で活躍している。

我々75回生当番幹事は、平成20年度第34号清陵同窓会報の特集テーマとして、「心は駆ける五大洲、理想の岸は遠くとも」と銘打ち、世界を舞台に千万人魂を発揮している清陵OBの生き様を取り上げることにした。

今日、世界動向は日常生活に直結し、諏訪の地でも、産業経済は勿論、行政、教育、文化など各方面で国際的視野が不可欠となっている。母校ではSSH海外セミナーが始まり、在校生の国際意識も高まっている。いち早く世界に飛び出した先輩から声を寄せて頂き、そのグローバルな生き方を同窓生や在校生に伝えたいというのが今回のテーマを選んだ趣旨である。

寄稿を依頼するに当たって、予想外に大勢の、海外経験を持って活躍されている方々の中から先輩諸氏に推薦して頂き、泣く泣く20名に絞り込んで、寄稿をお願いした。かつて諏訪湖しか知らない「井の中の蛙」がいかにかに脱皮して、大海に泳ぎ出たのか。海外での仕事や生活



SSHアラスカ研修 国際北極圏研究センターにて

から何を学んだのか、異文化経験を踏まえて見た日本や清陵とは何なのか。

掲載した寄稿は、それぞれ職業分野や在住地など異なるものの、いずれも豊富な海外経験を通じての知恵、洞察に満ちて、短文ながら読み応えがある。

海外に雄飛した方々は、言語、価値観の違いに格闘し、ナショナルなものやインターナショナルなものとの葛藤を経て、人間社会の本質を見るに至っている。そこから伝えたい共通のメッセージとは、外に出て異文化に接して視野を広げることの大切さ、国を跨いでも変わらない人との交流の大切さであろうか。

寄稿頂いた20名に代表される、同窓生が世界に歩んだ確かな道のり、それは我々に限りない勇気と希望を与えてくれるものと確信する。多くの方に是非ご一読頂き、明日を生きる糧として頂ければ、今回幹事を担当した75回生一同、これに尽きる喜びはない。

平成20年度 定期総会案内

- 一、日時 平成20年6月28日(土)午後1時30分より
- 一、場所 諏訪市湖岸通り「ホテル紅や」
- 一、議事 ①平成19年度会務・会計報告
②平成20年度事業計画・予算案審議
③その他

一、講演会 午後3時より

演題「明日の諏訪を語る」

出演

矢嶋民雄富士見町長(57回生)・清水 澄原村長(57回生)
今井竜五岡谷市長(74回生)・柳平千代一茅野市長(75回生)

諏訪清陵高校同窓会会長 林 尚孝(当番幹事75回生、次年度当番幹事76回生、サブ幹事85回生・95回生)

- 一、懇親会 午後5時より 会費 5,000円
アトラクション
清陵OBスペシャルジャズバンド

前売りチケットは当番学年・同窓会事務局・各支部事務局・学年幹事にて取り扱い中。当日受付にても可。

当番学年／藤原光郎 0266-79-4019

同窓会事務局 0266-58-0356



コロムビア大学アルデンハウスにおける小さな学会の折



夏期休暇に一家で

元 東レ㈱基礎研究所

コロムビア大学・生化学教室留学記 小沢 均 (48回生)

1967年(昭和42年)ニューヨーク、コロムビア大学・医学部生化学教室へ2年間留学した。都立大学理学部や医科歯科大学付属研究所で約10年間、助手や助教授として研究をしていたが、敗戦直後の大学は研究費が全くなかった。新設の生化学の教室では、生の血液を研究材料に使ったが、腐るのを防ぐ冷蔵庫が買えなかった。

昭和40年に近付くと日本は製造産業を中心に高度成長期に入り、大企業では中央研究所開設のブームが起こり、東レ㈱も基礎研究所を立ち上げた。そこに生化学研究チームも置くことに決まり、私がその研究チームリーダーとして赴任した。

研究室を立ち上げて約2年後にLOW教授への留学の話が纏まり渡米することになった(当時は先方の大学がサラリーを支払う証明書を送ってくれない限りビザが得られなかった。年俸1万ドルは当時では高給であった。1ドルが360円で格差はまだ大きかった)。

1月末にN.Y.に到着して10日もたたないある朝、バッファロー、ローズエル研究所のワイコフ教授が膵臓のリポ核酸分解酵素の立体構造を結晶X線解析法で決定して、その立体模型と一緒にLOW教授を訪れてきた(リポ核酸分解酵素は124個のアミノ酸配列など集中的に研究されてきた酵素で蛋白質の化学的研究はこの酵素の研究と共に発展してきた)。それは感動的な成果だった。たとえばこの酵素を蛋白質分解酵素でちょっと分解すると20番目のアミノ酸の所だけが切れることは知られていたが、分子模型では20番目のアミノ酸は分子の肩の所に露出していた。身体が震える程の興奮を覚えた。それから2年間、怒濤のように展開する分子生物学の夜明けに、ただ夢中に懐かしいニューヨーク生活が過ぎていった。

自ら反みて縮くんば 柳澤 嘉一郎 (50回生)

中学生の頃、運動会のときなど校庭に「千万人と雖も吾れ往かむ」と大書きした幟が翻ったのをよく覚えている。世の中にはいい言葉が一杯あるのに、殊更この言葉が旗印にされたのは何故だろう。それなりの経緯や理由があったのだろうが、私にはこの言葉は諏訪人の気質をよく表しているように思える。

その言葉の前には「自ら反みて縮くんば」とあるのだが、肝心なのは実はこの部分である。反みて善悪正邪を判断するのは脳の前頭前野だが、判断に当たって前頭前野は脳のいろんな領域に蓄えられた知識や体験の記憶を集め総合して判断を下す。もし知識体験が浅ければその判断は間違い易い。それでも「千万人と雖も吾れ往かむ」では、周りは大いに困惑するし社会も発展しない。

カエルはカエル、クジラはクジラの体験から判断する。広い体験と深い知識があつてはじめて適正な判断ができる。かつて世界の大河は私には六斗川だった。山は八ヶ岳だ。けれども、ミシシッピの川を渡ったときこんな大河もあったのかと感動し、ロッキーを超えたときにはその巨大な山並みに圧倒された。そして、自分自身大きくなったような気がしたものだ。人は体験や知識によって大きくなり適正な判断を下せるようになっていく。

「千万人と雖も吾れ往かむ」の気概大いに結構。だが肝要なのは「自らを(ちゃんと)反みられる」ようになることだ。一生懸命勉強して知識を深め広く体験を重ねて欲しい。

複雑化する国際社会への対応 河西 和彦 (52回生)

私の海外体験は約半世紀前、腹巻に400\$、プロペラ機で人種のルツボ・ニューヨークに渡り、現地法人の会社設立に始まった。ここで多くの教訓を学び取ることが出来た。信州しか知らぬ私は想像もつかぬカルチャーショックを受けた。

自分達の文化を維持継承するだけでなく、相手国の文化も理解する必要に迫られた。

- ・自分の国との相異点を早く把握すること。
- ・そのためにはその国の文化を多面的に知る努力を惜しまぬこと。
- ・相互理解できれば意志疎通は円滑となる。

かくして私のいた会社は単なる町工場から世界に名を成す企業に発展した。その名はソニー。いま思うに卓越した創業経営者のもとで旧来の風習に捕われず、自由闊達に仕事が出来た環境に恵まれ、タイムリーに新商品を世に送り出したことが企業と人を大きく成長させたものと確信している。

若い清陵の在校生諸君も出来るだけ機会を作って外に出て自分の視野を拡げる努力をするよう提言したい。21世紀は地球規模で物を考える時代となったのでマクロ志向で進んで貰いたいと思う。



1931年、上諏訪生まれ。コロムビア大学博士課程修了後ブランダイス大学、スローン・ケタリング癌研究所研究員などを経て東京教育大学、筑波大学教授。現在は筑波大学名誉教授。



山梨大学工学部卒、東京通信工業(現ソニー)入社、トランジスター時代の先駆けを築く。定年退職後、老母の介護で千葉県船橋から諏訪まで毎週通う。その間シニアの生き方の啓蒙活動を実践。『大衆長寿時代の老い方』等、著書多数。



1936年7月16日 長野県諏訪市上諏訪町生まれ。諏訪清陵高校卒業後、日本福祉大学で学ぶ。中日新聞社、博報堂を経て、フリーとなり音楽写真家として現在に至る。

1971年 日本写真協会新人賞・第36回芸術選奨文部大臣賞・紺綬褒章 等

“絶対にやり抜く” 信念を持って 木之下 晃 (58回生)

半世紀以上前、海外への旅は特別な人たちの世界で、清陵時代に外国で仕事することなど、夢だにできなかった。その為、英語の授業など全く身が入らなかった。それが卒業して15年ほど経った頃から、世の中が変わり、私も海外で仕事をするようになった。

私の仕事は、写真で“音楽”を撮ること、主にクラシック音楽に関係しているので、オペラハウスなどの撮影で、必然的に足が海外に向くようになった。気がつけば、地球の裏側、南米の各地にまで及び、約30年間で撮影した劇場は約300。著名な劇場はひとまず撮り終えた。撮影の交渉から現場での作業まで、殆ど個人で進めてきたが、その都度事情が違って、それは大変だった。

欧米では、“劇場”は文化の象徴なので、私のような仕事をする写真家は珍しく、海外の政府からも招聘の声がかかってきた。招かれた国はアメリカ、イギリス、ドイツ、スイス、フィンランド、チェコスロヴァキアなど延15ヶ国。その他、訪問した国は約30ヶ国余。心臓病を持つ身なので、妻との2人3脚で仕事を重ねた。

外国での仕事は、言葉の問題が一番大きい。いつも国が違っていると、現場でのコミュニケーションは想像を越える困難さがつきまとう。そこでの最も重要なことは“絶対にやり抜く”という信念を強く持つことにつきる。



清陵59回生 (S.31卒)。東京外語大 (S.35卒) 後NHK放送記者、米・欧勤務などを経て、外信部長、解説委員。退職後フリージャーナリスト、現在学生寮・長善館々長。東京・小平市に在住し、故郷の原村に通い農業。

ルーツに返る 堀内 敏宏 (59回生)

私の在外経験は古過ぎて、今の世代の参考になりそうもないが、ただ一つ助言できるのは、異なった環境の中で自分を見据える事だろう。

最近の若い世代には、自己肯定感を持ってない人が増え、自信や誇り・目的意識が薄れ勝ちだと気遣われている。

そうした中、在外の仕事にあっては、嫌でも祖国日本や自分の所属組織、自らの歴史的・文化的背景を意識せざるを得ない。つまり、自分のルーツを見直すチャンスに恵まれる。

私がそこで気付いたのは、あまりにも自分が日本のことを、従って自分のことも、知らなかった事だった。ニューヨークのアパートで隣り合わせた、米国人 (当時のパンアメリカン航空勤務) に、日本文化の精神的背景などを尋ねられ、しどろもどろの答えしか、出来なかった事を思い出す。

「自分探しの世界旅行」も悪くはないが、本当の自分探しは母国日本と、自分の中に求むべきで、在外はそのきっかけを提供するに過ぎない。

日本が世界でユニークなのは何故なのか、自分が他人と違うのはどうしてか……、自らの歴史・伝統・文化に、そのルーツを見定めたい。



1938年生まれ。1961年東京大学教養学部教養学科卒。丸紅株式会社入社。2001年専務取締役を退任。2002年から2006年まで国際交流基金理事。日米センター所長。2002年英国 Queen Elizabeth II より名誉大英勲章 CBEを叙勲。現在は国際教養大学理事・特任教授のほか社団法人・才能教育研究会 (スズキメソード) 常務理事、日英協会専務理事のほか欧州企業のアドバイザーなど。

若い時に異文化に接する機会を 細田 英哉 (60回生)

商社マンとして40年、まさに日本が高度成長時代を迎え海外にも飛躍していく時代を生きてきたことになる。海外駐在はロンドンに2回で合計10年、訪れた国は90カ国を越えた。色々な人にめぐり会い育てられた人生であった。

小生の場合大変ラッキーだったのは戦後松本で始まった「スズキメソード」のおかげで、子供の頃からヴァイオリンを習っていたおかげで音楽を通じての友人がたくさん出来たことであった。音楽は言葉の要らないコミュニケーション手段でもある。身分肩書きを問わないで心と心の交流が可能だ。世界が狭くなったとはいえ価値観の違う人たちとの真の交流は政治外交に限らずビジネスでも決して容易なことではないが私の場合、音楽がずいぶん交流の幅を広げてくれたように思う。

グローバル時代に生きてゆくには異文化に対する理解と関心が不可欠だ。これは理屈の世界ではない。むしろセンスと意識の問題だと思う。まず必要なのはある程度の語学力。それから皮膚感覚を大切にすることだ。そうしたセンスを磨くには若いときに異文化に接する機会を意識的に持つ努力をする以外に無い。商社で経営に関わったときには若い社員を出来るだけ早い時期に海外出張させたり駐在経験をさせたりすることに気を配った。現在は真にグローバルに通用する人材を育てようと、4年前に設立した国際教養大学 (中嶋嶺雄学長) の理事・特任教授として自分の経験を若い人たちに伝えているが、外国からの留学生の多いこの大学に全国から集まる若い人たちの、「世界に羽ばたきたい」という強い意欲が大いに元気づけられている。若い世代への期待は大きい。



現地法人GM室にて (平1)

昭38 都立大法卒 三協精機製作所入社。

昭49～54 オルゴール工場設立のためマレーシア赴任。昭62～平1 事業拡大(磁気ヘッド生産)のため再赴任。帰任後 財務部長・経営管理部長・監査役(平12退任)。



東大卒NHKでソ連ロシアを専門にモスクワ支局長など海外駐在14年。ソ連崩壊の報道で菊池寛賞。現在作新学院大学教授、日本エッセイストクラブ理事、サイトウ・キネン財団評議員。著書「エルミタージュの緞帳」「1ブードの塩」など。最新刊「狐と狸と大統領～ロシアを見る目～」(NHK出版)



打合せ後、中南米の人たちと。カリフォルニア州で。本人は右から3人目。

北海道大学電気工学科卒業
1969年 諏訪精工舎(現セイコーエプソン) 入社

2004年 同社 定年退職

1985年～3年間 アメリカ勤務
引き続き3年間 イギリス勤務
2001年に、イギリス勤務経験を生かした著書「イギリスは、ゴルフがようこそ!」を出版

マレーシア 木村 紀穂 (61回生)

多民族国家では、民族間の軋轢が常に内在している。そこへ先進国企業が進出すれば多くの価値観が錯綜することになる。立憲君主制のマレーシアは、国教(イスラム教)と国王(各州スルタンによる互選)は憲法上タブーであり、マレー人優先政策は雇用・大学入試・投資等で人種構成比率(マレー系6 中国系3 インド系他1)が適用されていた。マレー人の社会進出を促進する民族主義政策は、日本の合理主義では納得し難い事だろう。イスラム教徒に工場内礼拝室での時間内任意礼拝や、金曜日モスク礼拝希望者の外出容認も然りである。しかし投資回収を図る余り、性急な経済合理主義の押付け、現地の伝統文化の破壊になる事を認識し、相手の国益と価値観を理解尊重する寛容さを持つべきである。

オバケが工場に出たら迅速な対応を要する。怯えた言動からテンカン症状になり昏倒に至る。素早く隔離しないとオバケの噂は拡大伝播し、最悪の場合パニックによる集団逃走にも至る事がある。医学的には集団ヒステリーで、若い女子工員が陥り易く、IT企業モトローラでは数百人の工員が恐怖で職場復帰できず、数日間工場閉鎖し政府まで出動した例があった。当社でも、祈祷師を頼み山羊を生け贄に捧げる儀式をして貰い、オバケ退散に努め説得収拾したりした。原始精霊信仰(アミニズム)によるオバケ騒動を軽視すべきでない。農村部から突然工業化大量生産社会の渦中に放り込まれた少女達の、カルチャーショックの苦悩を理解して思いやるべきである。

※今や古い話かも知れないが、次なる発展途上国においては、新しい教訓となろうか。

家庭の重さを考えよう 小林 和男 (62回生)

銃による殺人が騒がれているが、それでもなお日本は世界の中で最も安全な国であることに変わりはない。殺人事件はアメリカやロシアに比べて10～20分の1だ。この安全な社会は何にも代え難い財産で次の世代に引き継いでいかなければならない。

暮れの佐世保の銃による殺人事件はそこに不安を抱かせる。メディアは銃の登録や警察の対応の甘さを非難する。だがその前にこの事件は間違いなく100パーセント防げたものだ。何年も無職の若者が高価な銃を何丁も買い込んだ。その金は何処から出たのか。迷彩服とヘルメット姿と銃はいやでも目につく。こんな事件は同居者が注意すれば起こらない。

問題はこうした事件でも、子供の自殺などでも、家庭の重さが全く議論されないことだ。家庭は社会の最も基本単位であることは世界中変わりが無い。家庭と親族のつながりを軽視する社会に安全な将来が保障されないことは、世界の事例が示している。

日本存在の意味 みつ い よしひろ 三井 嘉啓 (65回生)

次の3つの国々は、赴任や訪問した国で、安定はなく、激変や崩壊を体験してきた。

- 1) アメリカ、イギリス…赴任した国。第2次世界大戦の戦勝国だが深刻な不況に陥った。
- 2) ソ連、東ドイツ、東欧、中国…中国以外は共産政権が崩壊した。市場経済に移行した。
- 3) 日本、西ドイツ、フィンランド、イタリア…敗戦国だが、市場経済で経済復興した。

1)が衰退し、2)が崩壊したのは、内部の無気力や腐敗からという歴史の定めほかに、計画経済は破綻した「経済競争」が遠因である。それで1)、2)は「日本」と「日本人」を、「日本は世界2位の経済大国、世界3位の経済援助大国となった」、「近代化のモデルは日本。富める者から先に豊かになれ」と、日本をうらやましがり、目標にし、援助を受け、「日本人は優れた創造力やテクノロジーと、国を発展させた能力がある」とみている。これは日本存在の意味があることであり、誇りに思うとともに自信や勇気が与えられる。

さらに「日本繁栄の秘訣と今後は?」と尋ねられるから、つぎで応えることにしている。「日本は、世界規模の市場経済で、車、大型テレビ、複合プリンタ、デジタル・カメラなど実質世界標準となる製品“デファクト・スタンダード”をつぎつぎと開発してきた」そして「日本人の優れた創造力やテクノロジーをさらに磨き→つぎの目標となり→双方が成長し→世界と“Win-Winで共生する”サイクルを、今後も続けていくことになる」



昭和22年生まれ。清陵3年生時アメリカ留学。昭和46年一橋大学法学部卒、外務省入省。フランス、ジュネーヴ、ザール、ポルトガル、アルジェリア勤務ののち、平成9年駐フランス・ストラスブール総領事、13年駐ニカラグア大使、17年より駐アルジェリア大使、現在に至る。

『望郷』と『カスバの女』 清水 訓夫 (69回生)

「カスバ」とは、北アフリカ、とくにマグレブと呼ばれるアフリカ大陸西半分（リビアからチュニジア、小生の住むアルジェリアを通してモロッコまで）における旧市街のことを言う。特にアルジェリアの首都アルジェにあるカスバは、フランス領時代にフランス人が居住していた近代的地区と対比して現地人が居住していた旧市街として有名であり、ユネスコの世界遺産に登録されている。

昭和30年に『カスバの女』という歌謡曲が生まれ、多くの歌手に歌い継がれてきた。
♪…ここは地の果てアルジェリア、どうせカスバの夜に咲く、酒場の女の薄情け…♪
と聞いて思い出すことができるのは、戦前から昭和20年代生まれの世代までだろうか。作詞者大高ひさは、インスピレーションを1937年のフランス映画ジャン・ギャバン主演『望郷』から得ただろうと想像される。パリを逃げたジャン・ギャバン扮するヤクザのペペ・ル・モコは現地人の愛人の住むカスバに身を隠している。しかしパリからやってきた歌手に恋したペペはカスバから脱出するが、結局アルジェの波止場で自らの命を絶つという筋書きで、「望郷」とはアルジェからパリを想う意味である。

映画『望郷』を愛した世代は、戦前生まれのインテリでハリウッド映画よりフランス映画を愛で、かなわぬ恋にあこがれ、プリマチュアな死を運命と考えた世代でなかったか。歌『カスバの女』を愛した世代は、それを退廃的に歌った藤圭子を愛した我々全共闘世代ではなかったか。

先輩諸氏、同年代諸君、『望郷』と『カスバの女』のアルジェを訪れ、小生とともに青春時代を想起してほしい。



スコットランドに設立した設計会社の創立時メンバー。前列右から4人目が筆者。

1972年千葉工大電気工学科卒業後セイコーエプソン入社。半導体事業に所属して、世界初を含む多数のICを企画し設計。ロンドン赴任と、ミュンヘン及びスコットランドに新会社設立を起案して赴任した経験を持つ。

智恵の源泉は体験と知識 小平 光治 (70回生)

近年の、閉塞状態を続ける企業や、新規制を作って経済活性化を進める米国に対して規制緩和と一辺倒の日本政府を見ていると、日本は智恵を出せなくなったと心配になります。

智恵を出すには知識だけでなく体験の豊富さも重要であり、私自身は7年間の欧州赴任中に得た数々の体験を、新事業や新商品の企画に役立てています。

体験例を少々挙げてみます。「日本は世界一金髪が多い国かも」と髪を染めた日本人の多さを皮肉の一方で黒髪に羨望の眼差しを向けて、「持たぬものへの憧れ」は世界共通であることを気付かせてくれた同僚女性がいきました。また、エーゲ海周遊や北欧旅行で地域毎の自然環境の違いを実感したり、エリザベス女王園遊会に招かれて英国人の王室忠誠心を目の当たりにするなど、現地で暮らして初めて知ったことが無数にありました。

一見業務に関係なさそうなこれらの体験も、今の私がグローバルな企画を練る際の発想源になっており、豊富な体験を得られたことに感謝しています。

清陵生諸氏が知識だけでなく様々な経験を積み、将来の日本を智恵で支える人になることを願って筆を置きます。

中国現地法人の経営を通じて 五味 嗣夫 (72回生)

私は、セイコーエプソン(株)が中国における電子デバイス戦略拠点として江蘇省蘇州市に設立した蘇州エプソン有限公司に総経理(社長)として1999年から3年間赴任する機会を与えられました。蘇州は上海と南京の中間、太湖の東側に開けた人口600万人の、歴史・文化が豊かで日本とも関わりの深い都市です。蘇州市では中国政府外資導入政策に呼応し90年代より積極的に外資企業誘致が進められ、現在では欧米・日系・台湾の各企業がほぼ同じ割合で合計千数百社が進出し、中国有数の産業都市に発展しています。

さて、今後グローバル化が更に進展する中で、多くの皆さんが海外現地企業で活躍されることと思いますが、私は海外現地経営に当たっての基本姿勢について次のように考えます。

「日本とは異なる文化的・社会的風土を持った現地の経営においては、各々の国の思考・行動様式を理解してかかる必要があり、まさにここに、現地企業経営の遣り甲斐や楽しさ、そして難しさが凝縮しています。そして、この前提として、日本と日本型(経営)の良さをしっかりと身につけておく必要があると思います。」

海外で働く時、「親しい人、がんばる人、優秀な人」にきっとたくさん出会い、「複眼的な見方」もできるようになることでしょう。

写真＝呉儀副首相を工場に案内する筆者(2001年)



諏訪東京理科大学経営情報学部教授 技術士(経営工学部門)(学歴)山梨大(工)卒、神戸大(院)経営学研究科(MBA)修了。
(職歴)1973年(株)諏訪精工舎(現セイコーエプソン(株))入社、台湾EIT社董事長、蘇州エプソン有限公司董事総経理、野洲セミコンダクター(株)代表取締役社長、等歴任。2008年4月より現職。
海外勤務の間、蘇州日商倶楽部理事(日本人学校設立活動に参画)、蘇州市外商投資協合理事、等歴任。蘇州市人民政府より「創建国家環境保護模範都市先進個人」表彰。



明治学院法学部卒業。

1979年7月からニューヨーク
在住。

現在は、ユニバース光学アメリ
カ社長。

夢を持ち続けて…… 大槻 光男 (75回生)

辰野町にあるユニバース光学工業(株)の駐在員としてニューヨークのケネディ空港に降り立ったのは1979年7月7日の朝でしたから、もう28年になります。いずれは世界を舞台に活躍したいという夢はあっても、自分は英語をまともに話せず、相手は日本語を全く解せず、という状況の中に放り込まれてみて初めて“ただ喋る”という行為で自分の気持ちを相手に伝えられないということがどんなにもどかしく苦しいものかと思ひ知らされました。その上外国に出れば当たり前のことなのですが、どこの国、どこの街を歩いても周りは人種、肌の色、宗教、文化そして話す言葉の違う人たちばかり。その違いゆえに生まれる差別・争い。その中に自分と家族を置いて仕事をし、生活を営んでいくことはそれまで生まれ育ってきた世界の天地がひっくり返るかと思うほど大きなカルチャーショックでした。

最初は何でも吸収できる若さを武器にただ生き残ることだけに夢中でしたが、いつの間にか、知らない街を歩き新しい人々・文化に巡り会う楽しさ、仕事のレンズを通して未知のテクノロジーに接することのできる楽しさに夢中になっています。夢と最初に受けた強烈な印象を忘れずに持ち続けていて良かったと思います。



香港 環境保護活動で挨拶

日本の良さを世界に発信しよう 濱 典幸 (76回生)

私が海外駐在をしていた頃に比べれば、インターネットの普及や多様化により世界は一層小さく複雑になっています。私の関わっている業界では、デジタル化の波を受けて競争が本当にグローバルになり、物凄いスピードで変化しています。

さて、戦後日本はずっと欧米型の消費社会に変質してきました。その結果、環境問題や不安定な金融市場の原因となる、大量生産・大量消費・大量廃棄、また実体経済から離れた金融取引など、本来日本人がもっていた“美德”とはかけ離れた世の中になってしまいました。もともと日本は“もったいない”という言葉の通り“もの”を大切に作る国であり、勤勉実直を大事にする民族でした。外国から学んで“追いつけ追い越せ”の時代を経て実力がついた今、自らが伝統的な日本の良さ、日本人の価値観を再認識して世界に発信することにより、抽象的ではありますが、心豊かで幸せな世界の創造に大きな役割を果たす時期に来ていると思うのです。こんな素晴らしい日本がグローバル社会で存在感を増すためには、国益という名のもとでのぎを削る外交の場だけでなく、市民、個人レベルでも積極的に発信し、世界の人々の共感を醸成することが極めて重要だと考えています。

出身校：慶應義塾大学
経済学部

現職：セイコーエプソン(株)
業務執行役員

過去の海外駐在国、地域：オ
ランダ王国、ドイツ連邦共和
国、台湾の3カ所



離任の日、マカティ、ダスマリ
ニャスグレツジの我が家にて
現地スタッフと供に(ドライバー、
メイドさん2名、警備犬2頭)

「外務省医務官」をご存じですか？ 小口 晋平 (77回生)

外務省には「医務官」というポストがあります。私は外務省医務官として、昭和63年から平成2年まで、本省(霞ヶ関)診療所に1年、在フィリピン日本大使館に2年の計3年間勤務しました。医務官の経験から、海外旅行先での、特に食事について2～3注意事項を御紹介したいと思います。

ご参考までに、医務官の任務についてご紹介します。

世界の医療事情や生活環境、気候状況の厳しい国々の日本大使館に赴任し、

- ①大使館員およびその家族の健康管理
- ②在留邦人、邦人旅行者に対する保健相談、医療情報提供
- ③現地の医療情報の調査、報告

などが主たる職務であります。また、担当国(任国周辺の医務官不在の各国)を巡回し、任国同様の職務も担当します。

さて、海外旅行での食事は大きな楽しみの一つですが、旅先での「食」には、最低「生水、生物は飲まない、食べない」のルールが必要です。そのバリエーションとして、氷や切り分けて売っているフルーツは避ける、屋台、物売りでは買わない、ミネラル水の現地調達、もしくは世界共通のコーラ、ビールなど瓶詰めの炭酸飲料(菌は炭酸に弱い)などにします。また、旅行者下痢症(大腸菌の感染が多い)のために、かかりつけ医に頼んで抗菌剤を処方してもらって下さい。それでも万が一、あなたの第6感が重病の警笛を鳴らしたら、大使館の医務官にコールしてみてください。きっと日本語で、親身になって話に乗ってくれるはずですよ。では、楽しんで、良い旅を!!

昭和49年 諏訪清陵高校卒業
昭和55年 杏林大学医学部卒業
昭和63年 外務省入省
平成元年 在フィリピン日本
大使館赴任(医務官)
平成3年 諏訪中央病院
平成5年 小口医院 医院継承
現在に至る



東京大学工学部卒業
 '84年(株)諏訪精工舎入社
 '89年～'95年 米国サンノゼ
 開発拠点勤務
 '99年～'03年 米国サンノゼ
 設計拠点勤務
 セイコーエプソン(株)
 情報機器事業本部 部長

百人の一步より一人の百歩 宮坂 隆史 (82回生)

海外での「日本人」の印象は、所謂「金太郎飴」です。バランスよく教育され、個性が弱く、主張の弱い日本人。戦後の復興には最適な国民性だったのでしょうか。しかし、この奇跡的な経済成長を遂げた我々が苦悩し始めて何年が経つでしょうか。世界の見方は“Japan as No. 1”から“Can Japan compete?”へと変わっています。

日本の競争力再生に対し、私は個々人の「独創性」を伸ばす事が今最も重要な事であると確信しています。平等主義、年功序列を更に排除し、世界のトップクラスで活躍出来る人材を、時間をかけて育ててゆく事が、国際競争力向上への道だと信じています。

それには、教育現場での独創性の尊重、組織での若手の思い切った登用等、あらゆる現場で個々人の強みを徹底的に磨く環境を作る事を意識的に実施して行く事、つまり、「百人の一步より一人の百歩」を尊重出来る価値観の醸成が不可欠だと思います。

独創的な才能を育て、各分野に於いて国際社会でのリーダーシップを発揮出来る様に成る事が、今後の日本の国際競争力向上のみならず、国際社会における重要な役割ではないでしょうか。



揚子江にて

国を跨いでも変わらない人間の本質 佐藤 克彦 (82回生)

諏訪清陵高校を卒業してから約30年。生まれ育った諏訪の地に落ち着くことはなさそうだが、諏訪人の気質は自分の本質の一部だ。

清陵生は思想的に少しまかせていた。自分もマルクスやウェーバーをかじり、大学の社会学部に進学した。紆余曲折はあったが、地元の八十二銀行にお世話になることになった。

銀行の仕事で初めて中国に関わったのは96年のことだ。1年間の上海研修を命じられた。上海は国際化と経済発展が加速する激動期を迎えており、沈滞する日本経済を横目にエネルギーに満ち溢れ、もう暗い文革の印象は感じられなかった。2002年に上海事務所開設の為再び上海に赴任した。今や地元経済の一部は中国と共にある。地元金融機関も顧客と共に中国に向かう。そういう決断だった。

社会や経済制度の違いから、新しい事業の開設には相応の困難が伴い、習慣や文化の違いには多少の違和感を覚えたが、中国の人々との触れ合いで感じたのは、人間の本质は国を跨いでも変わらないということだ。人や経済の交流で国境の持つ意味は日々希薄化し、誰もが国際人でなければならない時代だと思う。その一方で自分のルーツ、故郷への思いを一層強くした。貴重な中国体験であった。



清陵を卒業後、アメリカ、アリゾナ大学で哲学、美術を専攻。2000年よりカナダに移住。トロントにて画家の活動を始める。現在二児の父親。ウェブサイトはwww.skartist.com

継続が大事 熊沢 慎也 (92回生)

私はカナダで画家をしています。

清陵では美術部と天文部でした。大学では天文学を学ぶつもりでしたが、興味がソフト哲学を学びました。しばらく実家に戻った後、カナダ人の妻と出会い、カナダに来て七年が経ちました。

私はもとより楽観的で物事を肯定的に考える性質です。だからカナダに来ていきなり画家になろうなんて考えたのかもしれませんが。トロント市内にハイパークという四百エーカーの自然公園があります。ちょうど近くに住んでいたし、風景が描きたいと思っていたのでそこへ行って絵を描いていたらぼつぼつ売れ始めた。ああ、これで食っていける、と思いました。翌年よりカフェやギャラリーで展示、野外アートショーに参加、顧客の数をどんどん増やしていきました。

画家で絵を描いていれば生活の心配しなくていいという人はまれです。ほとんどの人が収入源を考えないとイケない。じゃあどうするか。絵を売ればいい。じゃあどうしたら売れるか。マーケティングが必要だと思ったら自分で学びました。そうやって食いつないできました。継続が大事です。自分の絵が成長するには時間がかかるからです。それに好きなことをして生活している以上素晴らしい事はありません。



Ernst & Young LLP, National
International Tax Services,
Washington, D.C.
LL.M., New York University
School of Law
J.D., New York Law School
B.A., West Virginia University

周りの人を大切に 富澤 さおり (93回生)

アメリカに来てなんだかんだやっているうちに、あっという間に20年近く経ってしまいました。私の場合、特に計画を立てて生きてきた訳ではなく、気がついたらここまで来ていたという感じです。私は結構流れに任せてきてしまった方なので、あまり偉そうな事は言えないのですが、どこの国で何をやるにしても、最終的には自分の好きなことをやること、自分の気持ちに正直に生きることが一番大切なんじゃないかなと思います。そして自分の希望を実現する為には絶え間ない努力が不可欠です。私がこちらで弁護士になったのも、実は流れに任せての結果なのですが、そのための努力はすごくしたし、現在も、私の携わっている米国国際税法は変化の多い分野なので、毎日が勉強です。それから、外国で働きたい人は自分をしっかり持つこと。そうでないと周りの状況に振り回されて、自分にとって大切なものが見えなくなってしまう。そして最後は、基本的には人は皆同じだということ、国籍や人種が違っていい。だから、仕事でもプライベートでも自分の周りの人を大切にすることです。外国に住んで働くのは、何年経ってもすごくエネルギーがいるし、苦しいことも沢山ありますが、そこから得られる充実感もそれだけ大きいので続けられるのだと思います。



会社員
明治学院大学、ロンドン大学
ロイヤルホロウェイ校大学院卒

Plagiarism 清水 奈保子 (103回生)

日本で大学を卒業後、イギリスの大学院へ進学し、国際関係を専攻しました。私がイギリスで勉強した際、初めて出くわした言葉がplagiarismでした。これは他人の意見を明記なしに利用する事で、他人のアイデアを盗む立派な犯罪です。ですから、学生は課題制作の際、使用した文献の著者名・年・ページ番号を細かく記載する事が義務付けられています。このルールに沿わない課題は評価の対象にならず、ページ番号などの細かな記載ミスに対しても、大幅に点数が削られます。当然、ウェブサイトや本の丸写しをしたレポートの提出は許されず、教授陣が深刻だと判断した場合は留年もあり得るのです。この方法でのレポート制作は慣れるのに一苦労でした。日本での勉強は暗記が基本ですが、イギリスでは自分がどう考えるか、なぜそう考えるか、と掘り下げて考える事に焦点が当てられます。従って、レポート課題に取り組むためには、まず多くの本を読んで知識をつけ、そしてそこから自分なりの考察を導き出すのが、私たち学生の仕事なのです。日本では学生が人の文章や説を利用することに対してそれほど深刻に扱われないため、自分の意見をじっくり見つけた機会が少ないように感じます。本を読むだけで自分の知識が増えたかのように考えがちですが、それらが他人のものであると意識すると、案外多くの他人のアイデアを、そのまま自分の頭の中で借りっぱなしにしていた事に気づかされます。この原稿依頼を受け、イギリス文化について書こうかと本を読んでいましたところ、plagiarismの言葉を思い出し、思わず本を机に伏せてしまいました。清陵で学びみなさん、日々多くの知識に触れ、それらを身につける生活をなさっていることと思いますが、ぜひともそこから自分の考えを見つけ出す姿勢を身につけて欲しいと思います。

◆住所などの変更がありましたら事務局へ是非連絡をお願い致します。創立百十周年記念の『会員名簿』が発刊されましたが、その後に住所を変えられた会員も多く、例えば昨年の『同窓会報』は250通近くが事務局へ戻されております。差し支えなければ学年やクラスで作成されました最新の名簿を提供して頂ければ幸いです。尚、『会員名簿』の代金も未納の方は是非ご送金の程を。改めて催促方も考えております。

最先端技術にはロマンがある

理想を追求した **ノイズカットトランス™**

ノイズ障害防止の切り札で、近未来に先駆けるトランス型ノイズ防止素子です。



電磁障害防止
中央協議会
表彰品

NCT-Z型



高度情報化社会のアクセシブルな不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす
株式会社 電研精機研究所
創業者(工博) 矢ヶ崎昭彦(47回)

本社: 〒203-0042 東京都東久留米市八幡町1-4-21 TEL 042-473-3745(代) FAX 042-474-0613
大阪営業所: 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-7-5プロスペリタ四ツ橋 TEL 06-6538-1118(代) FAX 06-6538-2777
ノイズトラブル相談室 ノイズトラブルに関するご相談・調査・技術援助等を承ります。 URL <http://www.denkenseiki.co.jp/>



退任のご挨拶

同窓会長

林 尚孝 (52回生)

来る6月28日の総会での退任に先立ち、2期4年間の総括報告をいたします。

2004年6月5日、前立腺癌摘出手術で入院中の山王病院に宮坂久臣前会長から電話があり、会長就任を要請されました。入院加療中の身でありお断りしましたが、二週間後に総会を控えた6月13日に再度説得を受け、第8代会長をお引き受けしました。会長就任にあたり、母校創立110周年記念事業の成功と共に在校生との絆を強めることが重要な課題であると考えました。

110周年記念事業として、1) 記念講演会・記念フォーラム並びに祝賀懇親会(2005年6月25日実施)、2) 会員名簿発行、3) 三澤勝衛先生文庫の整備、4) 在校生との絆の強化、を柱としました。文化会館大ホールでの一般公開記念講演には山田洋次監督が『映画と私』と題してご講演下さり、記念総会並びにフォーラム、祝賀会も成功裡に行うことができました。会員名簿は、10年ごとに発行されてきましたが、今回は個人情報保護法の制約を受け、掲載拒否者の不掲載、職場電話番号の割愛などの変更がありました。6,000部を発行しましたが、ほぼ在庫ゼロとなりました。三澤文庫整備では、運営委員会を復活し、金子佳正委員長を中心に、環境整備や資料の電子化を進めていただきました。整備にあたり、エプソン、長野日報、市民新聞からの協力を頂いたことに感謝いたします。在校生は、入学と同時に同窓会終身会員となっており、それを自覚して欲しいと願いました。新入生に、同窓会から100周年記念ビデオ「清水ヶ丘にうたう」と校歌CDを入学時に無料贈呈するようにしました。入学式と卒業式の祝辞だけでは在校生との交流は不足であり、新入生に一昨々年、一昨年と体育館で1時間の講話を行いました。しかし、昨年は時間がないという理由で打切られたことは残念の極みです。

110周年記念事業以外について簡単に触れます。記念事業の反動で総会が低調になるのではないかと心配していましたが毎年盛会が続いています。各支部総会は支部独自のスタイルで開催され、年々充実していることは、ご同慶の至りです。(財)諏訪清陵会理事会・評議会、常任幹事会・幹事会は2月と5月に開かれ、地蔵寺での慰霊法要は4月に行われております。

同窓会後援で、2007年6月9日長野県歴史館で小石川高校紫友同窓会とともに『「伊藤長七アーカイブス」記念フォーラム』を成功裡に開催することができました。2007年11月23日～12月24日に諏訪市博物館で開かれた千野光茂初代清陵高校校長の歿後50年記念「特別展」にも同窓会の後援を頂きました。その折の座談会は別項の通りです。

今後の課題としては、公益法人の法律改正により、(財)諏訪清陵会の組織改編があることを書いておきます。

4年間何とか務めることが出来たのは、役員始め同窓生各位のご援助の賜物と感謝しています。どうも有難うございました。



伝統の創造力

学校長

篠原 秀郷

諏訪清陵高等学校同窓会々員の皆様におかれましては、愈々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃、母校の教育振興のために物心両面にわたって温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

前任の古原正之校長の後任として、4月1日付をもって野沢北高等学校より転任してまいりました。110余年の時間と卒業生2万3千人の思いが創造してきた揺るぎなき理念の学窓に参入し、校長として身の引き締まる思いです。佐久で生まれ育った私にとって、諏訪は初めての任地ですが、本校の伝統を生徒達の未来の創造力に繋げるため努力する所存であります。どうか、前任校長同様に、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、日本の教育界は現在、大きな転換期を迎えています。

平成18年12月に教育基本法が改正され、さらに平成19年6月、教員免許更新制や新しい職制の導入による学校組織の改変、教育委員会の責任の明確化などを盛り込んだ所謂教育改革3法が成立しました。児童生徒による凶悪事件の頻発や国際社会における学力の相対的な低下に象徴される教育の自壊現象が、家庭と学校の教育力に対する不信と不安を助長し、戦後60年にわたって成熟してきた教育の基本的な在り方の転換を是とする、日本社会の潜在的な雰囲気を形成してきたことは言を待ちません。

他方県内では、少子化に対応した高等学校の再編統合が喫緊の課題となっています。県教育委員会は来る6月には「再編計画の骨子」をまとめ、県民の意見を聞きながら本年中に再編計画案を示し、平成21年6月までに再編計画を策定する予定となっています。

こうした時代にあって、変化を主体的に受け止め、柔軟に時代を切り拓くたくましい人間の育成が強く求められています。本校は、公立進学校としてその負託に応える責務があります。不易流行の精神を教育活動の根幹に据え、常に先賢諸氏の壁を超えるべく切磋琢磨してきた学の歴史が今に確固として生き続けているからです。

年度の開始にあたって、先生方には優れた職能集団として在るために、教師のよさを「新鮮さ」と「謙虚さ」に求める大村はま先生の言葉を引用しながら、一層の研鑽をお願いしました。また、生徒諸君には、「人間の価値は、おもに、自己からの解放の度合によって決まる。」というアインシュタインの言葉を紹介し、自己に執着して遅滞することなく、知性によって新しい世界を獲得していくことの大切さを伝え、高校という学問の徒弟時代を生きる者の心構えについて語りました。校是とする「自反而縮雖千萬人吾往矣」の眼目は、「自反」する精神の広さと深さにこそ在ると考えるからに他なりません。

伝統から常に新しい創造力を汲み上げ、全ての職員とともに本校の教育活動に邁進していく所存です。

皆様のご多幸をお祈り申し上げ、変わらぬご支援とご協力をお願いして着任の挨拶と致します。



お世話になりました

前学校長

古原 正之 (69回生)

二年ぶりにお神渡りが出現した諏訪の厳しい冬の寒さも終わりを告げ、春爛漫の季節が巡ってまいりました。

同窓生の皆様には益々清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より、母校に様々な形で温かいご支援を賜り、誠に有り難うございます。

さて、私ことこの三月末日をもって定年退職となりました。二年間という短い期間ではございましたが、職員・同窓生の皆様の温かいご理解とご支援をいただき、無事勤めさせていただくことができました。この紙面をお借りし、改めて厚く御礼申し上げます。

思えば、高校生の三年間を含め、青年教師としての八年間、そして校長としての二年間と、いろいろな形で清陵高校に関わらせていただきました。

今、教職人生の幕をこの母校で閉じることができた幸せを噛みしめております。

二年間の在職中に為し得たことはほんの微々たるものでした。清陵生の現状に鑑み、特に、「遅い清陵生の育成」「学力向上策の見直し」「学習環境の整備」の三点に意を注がせてもらいました。

これらのことを実施するにあたって、資金面や同窓生の人脈など、様々な形で同窓会・同窓生の皆様からご支援を賜りました。とりわけ、(財)諏訪清陵会、理振等を通じての学習環境やクラブ活動への援助は大変心強く、遅い清陵生や学力向上の育成を支えていただきました。今やSSH事業の目玉となった海外セミナーアラスカ研修も同窓会、理振のご支援がなければ実施が困難な状況にありました。重ねて、感謝の意と引き続いてのご支援を心よりお願い申し上げます。

一方で多くの課題を残してしまいました。取り組みの成果についてはもう少しの時間の猶予が必要かと思いますが、いずれにせよ、この二年間、生徒達の様子を見るにつけ、時の移り変わりの中で、清陵高校もあるべき新たな姿を模索する必要があると感じました。

具体的には、型破りな生徒、活力に満ちた生徒が少なくなったことや、進学実績の伸び悩みへの対応です。原因はいろいろあるかと思いますが、社会を始め、家庭・学校でも何かと生徒への許容範囲が狭くなっている風潮の現れかも知れません。また、諏訪地区の中学生が他県・他地区へ流出している影響もあるのではないかと懸念しております。

幸い、後任の篠原校長先生は同じような課題を抱える進学高校の経験が豊富な方で、教育行政にも通じた辣腕です。こうした問題にも成果を発揮してくれるものと確信しております。私同様、同窓生の皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

それでは、伝統ある諏訪清陵高校とその同窓会が、今後益々発展・充実して行かれんことを心よりご祈念申し上げます。御礼と退職の挨拶といたします。

お世話になりました。ありがとうございました。

平成20年度 入試結果 (平成20年 4月現在)

国 立 大 学	現役生	浪人生	合 計	私 立 大 学	現役生	浪人生	合 計
北海道	2		2	国際医療福祉	6	1	7
北見工業		1	1	日本医療科学	1		1
東北	6		6	文教	4	1	5
筑波	7	1	8	文京学院	1	1	2
群馬	1		1	神田外語		1	1
千葉		1	1	目白	1	1	2
東京	1		1	帝京平成	3		3
東京外国語	2		2	秀明	1		1
東京工業	1		1	青山学院	6	2	8
一橋		2	2	学習院	4		4
横浜国立	1	3	4	北里	9	3	12
新潟	1	1	2	杏林	3		3
上越教育	1		1	慶應義塾	1	3	4
富山	2	1	3	工学院		1	1
金沢	1	1	2	國學院	2		2
山梨	3	3	6	産業能率		1	1
信州	22	8	30	白百合女子	2		2
静岡	3		3	実践女子	1		1
名古屋	2		2	芝浦工業	6	6	12
三重	2		2	上智	1	1	2
滋賀	1		1	成蹊	3	3	6
大阪	1		1	成城	3		3
神戸	1	1	2	専修	5	5	10
奈良女子	1		1	大東文化	1		1
鳥取		1	1	玉川		2	2
佐賀		1	1	中央	9	7	16
国立大学合計	62	25	87	津田塾	4		4
公 立 大 学	現役生	浪人生	合 計	帝京	1		1
札幌医科		1	1	東海	2		2
国際教養	1		1	東京経済	2	1	3
高崎経済	2		2	東京歯科		1	1
埼玉県立		2	2	東京女子	3	1	4
首都大学東京	3	1	4	東京電機	1	1	2
横浜市立	1	1	2	東京農業	6	1	7
金沢美術工芸	1		1	東京薬科		2	2
長野県看護	1		1	東京理科	4	6	10
岐阜薬科		1	1	東京工科		1	1
静岡県立	1	1	2	東邦	3		3
愛知県立	1		1	東洋	1	1	2
名古屋市立	1		1	日本	2	4	6
京都府立	1		1	日本歯科	1		1
大阪府立		2	2	日本女子	2	1	3
下関市立	1		1	日本赤十字	1		1
長崎県立		1	1	二松学舎		1	1
公立大学合計	14	10	24	法政	1	2	3
国公立大学合計	76	35	111	星薬科	1		1
国公立短大	現役生	浪人生	合 計	武蔵工業	1	1	2
千葉県立衛生短大	1		1	武蔵野音楽	1		1
長野県短大	1		1	武蔵野美術	1		1
静岡県立大短大部	1		1	明治	9	5	14
神奈川県立外語短大		1	1	明治学院	4	3	7
清水海上技術短期大学校		1	1	明治薬科	1		1
国公立短大合計	3	2	5	立教	7	2	9
私立短大	現役生	浪人生	合 計	早稲田	7	3	10
青山学院女子短大	2		2	駒澤女子	1		1
立教女子学院短大			0	学習院女子	2		2
松本大松商短大部	1		1	神奈川	5		5
京都女子大短大部	1		1	神奈川工科	1		1
神戸女子短大	1		1	関東学院	1		1
私立短大合計	5	0	5	鎌倉女子	2		2
専門各種学校	現役	浪人	合 計	相模女子	1		1
山野美容専門学校	1		1	洗足学園音楽	1		1
国専コンピュータビジネス専門学校	2		2	金沢工業	2	1	3
コンピュータ総合学園HAL	1		1	山梨学院	2	4	6
諏訪日赤看護専門学校	1		1	松本	1		1
日本電子専門学校	1		1	諏訪東京理科	1		1
東京観光専門学校	1		1	清泉女学院	1		1
専門各種学校合計	7	0	7	岐阜聖徳学園		1	1
現役進学率				静岡理工科	1		1
卒業生数	241人			愛知	1		1
就職者数	0人			愛知医科		1	1
進学者数	151人			中京	1	1	2
進学率	62.7%			中部学院		1	1
				名古屋外国語	2		2
				名古屋学院		1	1
				南山	1		1
				名城	2		2
				大阪薬科		1	1
				京都外国語	2		2
				京都女子	3	1	4
				京都薬科	1		1
				同志社	1	2	3
				同志社女子	1	1	2
				明治国際医療	1		1
				立命館	9	6	15
				龍谷	3	1	4
				京都文教	1		1
				関西	3		3
				関西外国語	2		2
				近畿	1		1
				摂南	2		2
				私立大学合計	198	98	296

学 校 だ よ り

学校長に野沢北高等学校より篠原秀郷先生をお迎えし、4月4日(金)の入学式では245名(男子140名、女子105名)の新入生の入学を許可し、全校生徒732名(男子415名、女子317名)・教職員66名で平成20年度の新しいスタートを切りました。

それに先立ち、3月1日(土)には第60回卒業式が挙行され241名の生徒がそれぞれの将来に向かい、本校を旅立ちました。

学 友 会 よ り

4月7日に対面式、11日には新入生歓迎会が行われ、クラスごとの新入生の歓迎乗艇も終了しました。今、生徒たちは、それぞれの大会に向けて邁進中です。清陵祭の準備も着々と進んでいます。今回は学友会の中から消えてしまった風景を多少の寂しさを込めて紹介します。



▲歓迎会 コモンスペース

対面式は上級生の手拍子の中を新入生が整然と入場しますが、歓迎の怒声も野次も「シィシィ」もありません。歓迎会のフィナーレを飾った下諏訪黎明会のラインダンスはもはや見ることもできません。

地方会活動を支持する生徒は3割となりました。試胆会はありやなしやの状態。時代の流れを感じますが「金色の民」は今も健在です。
寂しいでは済まされないので校歌。歌う機会は多くありますが元気がありません。歌えないのではなく、歌おうとしない——ひょっとして、校歌が生徒のものではなく、学校教育の中に取り込まれてしまったのかもしれない。そういえば、談話会の中で「自治」の言葉も聞かれなくなりました。



▲歓迎会にて「金色の民」

さて、今年度の清陵祭は7月3日(金)～7日(月)、4日と5日の土日が一般公開の予定です。ぜひ、ご来校ください。端艇大会(下諏訪町漕艇場)は9月3日(水)、湖周マラソンは10月15日(水)です。

昨年度(19年度)のクラブ・同好会の活動実績

端艇部は4種目でインターハイ出場、古典ギター部はギターマンドリンフェスティバル(7月、大阪)で全国知事会賞、発足1年に満たなかった百人一首同好会も全国大会へ。清陵ではちょっと珍しいフィギアスケートの野口博一君もインターハイ出場。

水泳部の木川海君がインターハイ県大会50m自由型で1位、同100mで2位、五味源君が100m平泳ぎで2位、200mで4位、400mリレー、同メドレーリレーと北信越大会に進みました。



▲古典ギター部

多くのクラブが南信大会を勝ち進み県大会に出場しますが、その先がなかなか難しいのが現状です。野球部は夏の県大会準々決勝で松商に1-5負け。

クイズ研究同好会は人数不足のため全国高校生クイズ大会に出場できず。

S S Hコースの竹松俊彦君が国立極地研究所主催の「中高生南極北極オープンフォーラム」で特別優秀賞(2位相当)、本校の受賞は3年連続。

(学友会顧問 武居美博)

端 艇 部 よ り

端艇部の全国大会出場に際し、同窓会長はじめ同窓会からご支援ならびにご声援をいただき、ありがとうございます。また、物心両面でご支援ご協力いただく端艇部OB会にも、



▲女子クルー

この場を借りて、感謝申し上げます。

昨年平成19年度は、男子35名、女子20名の合計55名の部員を擁し、男女計6種目中4種目で出場権を勝ち取り、部としては17年連続のインターハイ出場を果たしました。唐津インターハイでは、最終日の風波にオールを捕られ、存分な結果を出せませんでしたが、3年生10名の引退後、悔しさをバネに練習に励み、新人大会、中部選抜大会を経て、3月静岡県天竜での全国選抜ボート大会に男女舵手付きクオドルプル出場、女子は全国8位に入賞しました。

今年度、1年生新入部員も迎え、全国舞台でのさらなる活躍をめざしたいと思います。よろしくご支援のほどお願いいたします。

(端艇部顧問 橋本智)

平成19年度末 教職員人事異動

転・退職職員		教科	新任職員	
氏 名	転出先等		氏 名	前任校等
古原 正之	退 職	校長	篠原 秀郷	野沢北高
小野 文雄	退 職	国語	小松 文夫	
駒瀬 隆	箕輪進修高	社会	佐藤 順	富士見高
中田 恭二	野沢北高		横山 孝夫	野沢北高
澤柳 博文	木曽青峰高	数学	今井 隆	木曽高
久保田弥生	岡谷工業高		細萱 永治	南安曇農業高
篠島 良一	教学指導課	理科	竹澤 愛子	松本県ヶ丘高
原 護	退 職		高山 直之	木曽高
小池 良彦	中野立志館高	書道	伊藤 哲雄	伊那弥生ヶ丘高
倉島 美佐	退 職		山岸 靖幸	エクセラン高
上島 明奈	梓川高	英語	小宮山健司	高遠高
伊藤 哲也	甲府西高		奥村 達朗	松本深志高
轟 律夫	野沢北高	養護 事務	関 和幸	岡谷南高
小野沙弥香	富士見高			
土田 真美	諏訪二葉高		木下めぐみ	小海高
北澤 寛久	長野地方事務所		清澤 博	岡谷技術専門校

SSH「海外科学セミナー」アラスカ研修



アラスカ大学国際北極圏研究センター名誉所長
赤祖父俊一氏による気候変動の講義

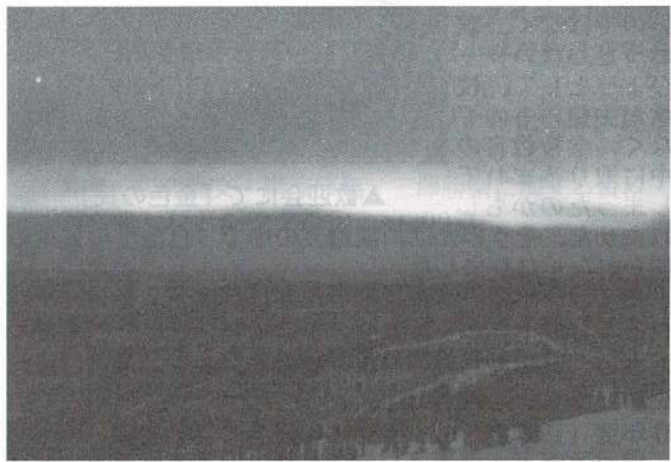
2008年2月5日から4泊6日でアメリカ合衆国アラスカ州フェアバンクスに2学年SSH課程生徒24名（男子22名、女子2名）を派遣した。現地は寒波に見舞われており、滞在中のフェアバンクスの日中の最高気温は-30℃であった。太陽活動の11年周期（これが太陽黒点数の11年周期と一致する）の極小期をちょうど過ぎたところであり、オーロラ活動の活発さも概ねこれと一致するために今年のオーロラ活動はもともと極小である。さらに今回の滞在はオーロラ活動の27日周期の最も静かな時に当たってしまった。しかし幸運なことに新月（夜空が暗い）と快晴（オーロラの下端は高度100kmなので曇ったら見えない）が重なり、昨年のように動いてはいなかったものの観測3夜中2夜でオーロラを観測することができた。またオーロラの観測だけでなく、紫外線、磁場、重力加速度や雪の成分、植物、隊員の血圧・心拍変化などの実験を行なうことができた。アラスカ大学国際北極圏研究センターでは昨年同様赤祖父俊一先生をはじめとする先生方から気候変動、地震、火山の講義や実習をしていただいた。赤祖父先生が過去数百年の気温の指標として御神渡りの記録を紹介されたのが印象的であった。

昨年の観測隊生徒（111回生）はこの春清陵高校を卒業した。観測結果を清陵祭で発表するだけでなく、日本地球惑星科学連合2007年大会、応用物理学会記念行事などでポスター発表し、同窓生の先輩方にもお目にかかっ



2夜目オーロラ乞いの民をするもオーロラ現れず

てご指導いただくことができた。これらの経験は、彼らの大学での学習や今後の研究生生活に大いに役立つであろう。また、彼らの1年間の活動を追った長野放送（NB S）制作の番組「オーロラ 宇宙から来た手紙 高校生のスーパー・サイエンス」（2007年4月23日長野県内放送）が第49回科学技術映像祭ポピュラーサイエンス部門で文部科学大臣賞を受賞し、5月25日（本会報がお手元に届く直前）の午後3時15分から5時までのNHK教育テレビの番組の後半（47分間）で全国放送される予定なので県外在住の同窓生の皆様はぜひご覧いただきたい（手遅れですみません）。



今年のオーロラ

品質一筋

造り手である私たち自身が舌鼓を打って飲む酒。
大切な家族に安心してすすめられる酒。

親しい友人に胸を張って贈ることができる酒。

私たちはお客様にそんな真澄をお届けしたいと願っています。

だから、品種や産地が分らない米は買いません。

製造工場のディテールには徹底して



こだわります。

一〇〇%自社製造を守りぬき、

純米酒比率の向上にも力を注いで

しました。

創業から三四六年目となる今年も、

私たちは

お客様のお顔を自らの家族や友人の

顔に重ね合わせながら

美酒を醸し続けます。

信州が生んだ天下の銘酒

真澄
マスミ

清酒真澄醸造元

宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野諏訪市元町1-16

TEL. 0266-52-6161 FAX. 0266-53-4477 www.masumi.co.jp

平成 19 年度 定期総会の記



2007年度の同窓会本部・定期総会は、6月30日諏訪市のホテル紅やを会場に盛大に開催されました。

当番幹事となった74回生としては、広い会場が果たして埋まるか大いに心配したところですが、各支部、学年幹事など大勢の皆様のご努力のおかげにより3百数十名の出席者を迎え、昨年に迫る大盛会となりました。

当番幹事74回生の任務は、昨年秋、同窓会報づくりからまず始まりました。テーマを「ひとすじの道をゆく」とし、知られていなくとも各分野でこつこつと自らの道をゆく、諸先輩の生き方に光を当てることに努めました。総会においても、このタイトルを本年度の中心テーマとすべく、特集展示コーナーを設け先輩諸氏のユニークな活動や思いが参加者に伝わるようにと考えました。

総会では、林会長から、激動の現代を生きるわれわれにとって、清陵時代は生き方の基になったとの話があり感銘を与えました。また、来賓あいさつでは、古原正之校長（69回生）が、文武両道にわたり活躍する在校生の現況を報告、大きな拍手を浴びました。

議事では、2006年度会務報告、決算及び2007年度事業計画・予算が原案通り可決されました。事業計画では、清陵第1校歌作詞者であるとともに、初代校長に戴いてその精神を受け継ぐ東京小石川高校が熱心に進める、伊藤長七の記念フォーラムに対する支援などの提案が目を引きました。また、学生寮道志社に関連した地藏寺本堂の改築の話、中高一貫教育の研究などの報告もありました。

次年度当番幹事の75回生からは、代表して茅野市長

に当選したばかりの柳平千代一氏が、来年度開催の熱い決意を語り、盛んな拍手を浴び、総会は無事終了しました。続いて、岩本敏男氏（74回生）が講演を行いました。「お金が消える日ー暮らしを変える魔法のカード」と題し、ITが暮らしに与える驚くべき影響から説き起こし、すでに未来社会に突入したかのような目くるめくバーチャル



講師 岩本敏男氏

（仮想）の世界にいざないました。一般人には理解困難な電腦社会の話も多かったものの、IT最先端の世界を垣間見る思いでした。実際、その後のスイカやパスモなどの爆発的な普及を目の当たりにして、講演時には半信半疑だったカード社会突入を改めて実感したものです。

懇親会では、昨年好評を博した清陵OBスペシャルジャズバンドに今年も出演をお願いし、オープニングを飾っていただきました。「青い山脈」「初恋」「ボロボロ校舎」など、なつかしの青春ソングに会場は大いに盛り上がりました。

どのテーブルにも人があふれ、同年生ばかりでなく会場中の参加者が混ざり合い、熱い交流のるつぽと化しました。75回生の音頭による全員の校歌斉唱は圧巻で、万雷のごとく会場に轟きわたりました。

万歳は、出席者で最年長、95歳の大先輩、宮坂水穂氏（31回生）の音頭により、山をも抜かんの勢いで行い、再会を約してお開きとなりました

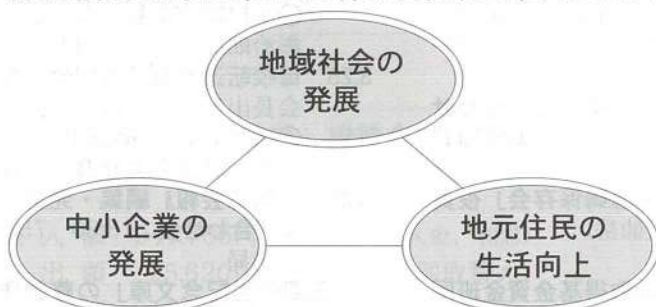
（74回生 岩波豊明 記）



▶若い女性の参加も増加

「この街と生きていく。」

諏訪信用金庫は常に地域の活性化を図ることを真剣に考えています。



諏訪地域に本店のある地元の金融機関

諏訪信用金庫

<http://www.suwashinkin.co.jp>

会 長 宮坂 久臣 (49回)

理事長 花岡 粧好 (68回)

平成19年度 会務報告

■平成19年

4. 4 諏訪清陵高校第113回生入学式
新入生242名(女子104名) 林
会長祝辞
○新入生に「校歌」CD・ビデ
オ「清水ヶ丘にうたう」を贈る
- 4.16 『同窓会報』編集・発送に関し
て打合わせ会 13:00 74回生・
事務局(清陵会館)
- 4.18 物故会員並びに道志社先輩慰霊
法要 11:00 林会長ほか25名
参列(地藏寺)
○地藏寺“本堂”改築に際して
同窓会より祝儀を差上げる
- 4.27 母校の将来に関して意見交換会
14:00 古原学校長・今井副会
長・松下副会長・事務局長(清
陵会館)
- 5.11 (財)諏訪清陵会会計監査・同窓
会会計監査 14:00 矢崎斉男
監事・河西節郎監事・今井副会
長・松下副会長(名簿委員長)・
事務局長(清陵会館)
- 5.12 上伊那支部総会 15:20 林会
長・細田教頭出席(辰野パーク
ホテル)
- 5.14 本会「定期総会」・『同窓会報』
に関して打合わせ会 14:00
74回生・事務局(清陵会館)
- 5.21 (財)諏訪清陵会の事業・予算に
関して打合わせ会 11:00 古
原学校長・細田教頭・今井副会
長・石田清陵会書記・事務局長
(清陵会館)
- 5.28 『同窓会報』第33号発送作業
(74回生と母校1年生の協力に
より約16600通を発送)
6. 2 (財)諏訪清陵会 理事会・評議
員会 11:30 (母校会議室)
○平成18年度事業報告・収支
決算承認、公益法人制度改革に
向けて、その他
同窓会常任幹事会 13:30 (清
陵会館)
○幹事会提出議案審議
同窓会幹事会 15:30 (清陵
会館)
○18年度事業・各種会計決算
承認、19年度事業案・予算案
承認。三澤文庫整備事業、母校
を支援する委員会、伊藤長七フォー
ラム、地藏寺本堂改築等に関し
て
懇親会 17:20 (清陵会館)
6. 9 「伊藤長七アーカイブス」記念
フォーラム(長野県立歴史館)
主催:紫友同窓会(五中・小石
川高校)・諏訪清陵高校同窓会・
小諸寒水会 林会長が主催者を
代表してフォーラムの趣旨説明
- 6.21 「定期総会」に関して打合わせ

- 会 13:40 74回生・事務局長
- 6.29 「定期総会」準備会 19:00
74回生・今井副会長・事務局
長(ホテル紅や)
- 6.30 平成19年度諏訪清陵同窓会定
期総会 13:30~(ホテル紅や)
○平成18年度会務・会計(一
般・特別・クラブ)報告、名簿
会計決算報告。監査報告。19
年度事業計画・予算などの承認。
母校を支援する委員会、三澤文
庫整備事業、伊藤長七「記念フォー
ラム」、地藏寺本堂改築等に関
して〔議長:小川勝嗣東京支部
長〕
記念講演「お金が消える日ー
くらしを変える魔法のカードー」
講師 岩本敏男氏(74回生 株
式会社NTTデータ取締役常務
執行役員 金融ビジネス事業本
部長兼郵政システム事業本部長)
懇親会 17:10 (ホテル紅や)
○オープニング:清陵OBスペ
シャルジャズバンド
アトラクション:みんなで歌お
う わが青春時代
〔当番幹事74回生、次期当番幹
事75回生、サブ幹事84・94回
生〕
- 7.27 『同窓会報』に関して打合わせ
会 75回生・事務局長 13:00
(清陵会館)
10. 5 母校の将来に関して現状と意見
交換会 古原学校長・今井副会
長・松下副会長・事務局長(清
陵会館)
- 10.17 母校「湖周マラソン」OB21
名参加 終了後、清陵会館にて
慰労懇親会 今井副会長出席
- 10.19 東京支部(東京清陵会)総会
18:00 林会長・古原学校長出
席(アルカディア市ヶ谷)
- 10.24 当番幹事学年引継ぎ会(74回
生から75回生へ) 林会長・事
務局長(仙岳)
11. 8 旧東バル跡地取得基金資金班同
窓会部会 17:00 石城諏訪支
部長(会長代理)(諏訪市役所)
- 11.16 諏訪支部総会 18:00 林会長・
細田教頭出席(諏訪シティホテ
ル成田屋)
- " 本部役員(三役)会(清陵会館)
- 11.23 諏訪市博物館特別展「千野光茂
ー激動の時代を駆け抜けた科学
者ー」(11月23日~12月24日)
〔同窓会後援〕座談会「記憶の
中の千野光茂」コーディネーター
林会長
- 12.14 『同窓会報』に関して打合わせ
会 13:30 75回生・事務局長
(清陵会館)
- 12.17 「山本喜市記念碑保存会」役員
会 16:00 (仙岳)
- 平成20年
- 1.31 旧東バル跡地取得基金資金班同
窓会部会 10:00 今井副会長

- (会長代理)(諏訪市役所)
2. 2 茅野支部総会 15:30 林会長・
細田教頭出席(マリオローヤル
会館)
○小川明人支部長が退任し、牛
山俊氏(61回)就任
2. 3 富士見支部総会 18:00 林会
長・細田教頭出席(味彩)
2. 8 『同窓会報』に関して打合わせ
会 13:30 75回生・事務局
" (財)諏訪清陵会に関して打合
わせ会(2月16日役員会に向
けて) 14:30 細田教頭・今井副
会長・石田書記・事務局長(清
陵会館)
2. 9 東海支部総会 11:00 林会長・
古原学校長出席(キャッスルブ
ラザ)
○岩田昌久支部長が退任し、小
松久夫氏(59回)就任
- 2.15 北信支部総会 18:00 林会長・
古原学校長出席(ホテル国際21)
- 2.16 (財)諏訪清陵会 理事会・評議
員会 11:30 (母校会議室)
○平成20年度事業計画・収支
予算の件、公益法人制度改革に
向けて、役員改選の件、その他
同窓会常任幹事会 13:30 (清
陵会館)
○幹事会提出議案審議
同窓会幹事会 15:40 (清陵会
館)
○平成20年度定期総会・会報
関係、本会の役員改選に関して、
その他
○懇親会 17:20 (清陵会館)
- 2.19 岡谷支部総会 18:30 林会長・
古原学校長出席(ホテル岡谷)
○鮎澤茂登支部長が退任し、花
岡征好氏(68回)就任
- 2.23 関西支部総会 11:00 林会長・
古原学校長出席(阪神グリーン
ルーム)
- 2.24 原支部総会 16:00 林会長・古
原学校長出席(樫の木荘)
○堀内元長支部長が退任し、荒
木桂男氏(63回)就任
3. 1 母校第111回生卒業式 10:00
卒業生241名(内女子107名)
茅野副会長祝辞
○同窓会から会長メッセージを
添え卒業記念品として「印鑑セッ
ト」を贈呈
3. 4 下諏訪支部総会 18:00 林会
長・古原学校長出席(ぎん月)
○小口剛支部長が退任し、野澤
彰治郎氏(61回)就任
- 3.25 母校転退職職員送別会 今井副
会長出席(浜の湯)
○古原正之(第29代)学校長
退職 同窓会より饞別(16名)
- 3.28 『同窓会報』編集・発送に関し
て打合わせ会 13:30 75回生・
事務局
他「三澤先生記念文庫」の整備作業を
年間を通じて随時実施

平成19年度 同窓会一般会計決算報告

収入総額 9,008,470円
支出総額 7,656,816円
差引残高 1,351,654円 (平成20年度へ繰越)

平成20年度 同窓会一般会計予算案

収入総額 8,676,654円
支出総額 8,676,654円
差引残高 0円

収入の部				(単位：円)	収入の部				(単位：円)
科 目	予 算 額	決 算 額	増減(▼)額	備 考	科 目	予 算 額	前年度予算額	増減(▼)額	備 考
前年度繰越金	1,183,633	1,183,633	0		前年度繰越金	1,351,654	1,183,633	168,021	
入 会 金	1,210,000	1,210,000	0	5,000円×242名	入 会 金	1,225,000	1,210,000	15,000	5,000円×245名
終 身 会 費	4,840,000	4,840,000	0	20,000円×242名	終 身 会 費	4,900,000	4,840,000	60,000	20,000円×245名
基本財産収入	120,000	154,335	34,335	定期預金利息	基本財産収入	150,000	120,000	30,000	定期預金利息
繰 入 金	1,500,000	1,500,000	0	基金より	繰 入 金	1,000,000	1,500,000	▼500,000	基金より
雑 収 入	30,000	120,502	90,502	普通預金利息、CD・100年史・名簿代、他	雑 収 入	50,000	30,000	20,000	普通預金利息、CD・100年史・名簿売上金、他
合 計	8,883,633	9,008,470	124,837		合 計	8,676,654	8,883,633	▼206,979	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増(▲)減額	備 考
会 議 費	250,000	173,552	76,448	役員会、慰霊法要 等
総 会 費	350,000	339,288	10,712	運営費、資料印刷代、広告代、他
旅 費	700,000	659,820	40,180	役員会、役員出張旅費 等
人 件 費	480,000	480,000	0	給与（事務局長）
需 要 費	100,000	125,928	▲ 25,928	新聞代、事務用品 等
備 品 費	0	0	0	
役 務 費	250,000	292,936	▲ 42,936	電話代、郵送料、LCV-NET利用料、他
慶 弔 費	850,000	821,520	28,480	支部総会祝儀、餞別、弔電、広告代、他
記 念 品 費	200,000	168,700	31,300	卒業生への記念品代
繰 出 金	3,950,000	3,950,000	0	会報(190万円)、清陵会(200万円)、会館維持(5万円)
基金繰出金	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	1,753,633	645,072	1,108,561	伊藤長七フォーラム、地蔵寺、SSH事業補助
合 計	8,883,633	7,656,816	1,226,817	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増(▲)減額	備 考
会 議 費	250,000	250,000	0	役員会、慰霊法要 等
総 会 費	350,000	350,000	0	運営費、資料作成費、広告代、他
旅 費	700,000	700,000	0	役員会、役員出張旅費 等
人 件 費	480,000	480,000	0	給与（事務局長）
需 要 費	120,000	100,000	▲ 20,000	新聞代、事務関係費 等
備 品 費	0	0	0	
役 務 費	270,000	250,000	▲ 20,000	電話代、郵送料、NET利用料、他
慶 弔 費	850,000	850,000	0	支部総会祝儀、餞別、弔電、広告代、他
記 念 品 費	200,000	200,000	0	卒業生への記念品代
繰 出 金	3,950,000	3,950,000	0	会報(190万円)、清陵会(200万円)、会館維持(5万円)
基金繰出金	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	1,506,654	1,753,633	246,979	
合 計	8,676,654	8,883,633	206,979	

諏訪清陵高校同窓会「基本財産」目録

基本財産 54,000,000円

(内訳) 定期預金 諏訪信用金庫 44,000,000円
八十二銀行 10,000,000円

平成19年度 同窓会110周年特別会計決算報告
(平成19年 4 月 1 日から20年 3 月31日)

収 入 額 4,341,028円
繰 越 金 4,335,794円
利 息 5,234円
支 出 額 1,613,254円
三 澤 文 庫 113,254円
繰 出 金 1,500,000円 (一般会計へ)
差引残額 2,727,774円
(平成20年度へ繰越)

平成19年度 「同窓会報」 特別会計決算報告
(平成19年 4 月 1 日から20年 3 月31日)

収 入 額 2,470,564 円
(繰越金、一般会計より繰入金、広告収入等)
支 出 額 2,208,891 円
(会報33号編集印刷費、発送料等)
差引残額 261,673 円
(平成20年度へ繰越)

平成19年度「清陵会館」維持会計決算報告
(平成19年 4 月 1 日から20年 3 月31日)

収 入 額 941,706円 (繰越金、繰入金、利息)
支 出 額 25,620円 (1 階の湯沸器取替え)
差引残額 916,086円 (平成20年度へ繰越)

諏訪清陵高校OB・OG

「諏訪湖一周マラソン」のご案内

本年も恒例の諏訪湖一周マラソンOB・OG大会を下記により母校の伝統行事に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの参加と応援を期待しご案内とします。

1. 日 時 10月15日(水)女子8時40分、男子9時スタート
2. コース スタート・ゴール 湖畔石彫公園 約18km
3. 受 付 湖畔石彫公園のスタート地点 午前7時30分よりゼッケン受取り後スタート地点へ 終了後懇親会
4. 参加費 3,000円
5. その他 健康診断もお忘れなく、雨天の場合受付時に判断

清陵湖周マラソンOB会

会 長 牛山 孝 (59回)
問合先 原 英充 (65回) Tel 0266-58-3547
会 計 唐沢千明 (76回)

清陵高校クラブ後援会(3 者)会計報告 (PTA・同窓会・学友会)

平成 9 年度に P T A・同窓会・学友会により結成された「清陵高校クラブ活動後援会」も発足以来11年経過しました。同窓会においては会員各位のご理解を得るなか、この11年間に 2791万円の援助を頂いてまいりました。

平成19年度は、108の大会に延べ1800余名の生徒が“清陵”の名を背負って各種大会に参加し、頑張っておりました。

中でも、北信越大会には、端艇部、水泳部、スケート部が、また、全国大会には、端艇部、スケート部、古典ギター部、書道部、百人一首同好会が出場しました。端艇部インターハイは準決勝進出、全国選抜大会では、女子クオドルプル 8 位、古典ギター部では優秀賞・全国知事会賞、書道部では最高賞の受賞など栄誉ある成績を収めることができました。

その他、各種大会に参加するための生徒遠征費や校外の施設を使用することによる施設使用料に対する補助も実施いたしました。

なお、既に各クラブ・同好会とも前年以上の成績を目指して部活動に入っており、引続き絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。（学校事務長 細野勇治）

平成19年度 クラブ活動後援会（3 者）会計決算

収入総額	10,735,039円
支出総額	10,488,140円
差引残高	246,899円

収入の部（単位：円）

科 目	予 算 額	収入済額	比較増減
繰 入 金	9,290,000	9,290,000	0
県等補助金	606,000	1,339,500	733,500
雑 収 入	294	1,833	1,539
繰 越 金	103,706	103,706	0
合 計	10,000,000	10,735,039	735,039

支出の部（単位：円）

科 目	予 算 額	支出済額	比較増減
生徒遠征費	6,780,000	7,235,655	△455,655
大会参加費	1,500,000	1,643,890	△143,890
登 録 料	800,000	765,590	34,410
施設使用料	800,000	835,605	△35,605
事 務 費	20,000	7,400	12,600
予 備 費	100,000	0	100,000
積 立 金	0	0	0
合 計	10,000,000	10,488,140	△488,140

清陵高校クラブ活動同窓会後援会への入会のお願い

平成 9 年度の定期総会において「母校の全てのクラブ・同好会に関して、母校を代表して各種大会等へ出場する場合の生徒遠征費等を支援すること」を目的に標記の後援会が発足致しました（詳細は平成 9 年度発行の『会報』第23号参照）。

平成 9 年度からの 5 年間（第 1 次）に1,730名から協力（入会）を頂き、1,244万円を学校へ。また、引き続き平成14年度からの 5 年間（第 2 次）でも、『会報』発送の都度、郵便振替用紙を同封して協力をお願いし、1,701名の協力を頂き1,252万円を学校へ。この結果、平成18年度までの10年間に2,496万円を母校に贈ることができました。ご協力誠にありがとうございました。

平成19年度から第 3 次・5 年間の同窓会後援会がスタートしております。つきましては、この『会報』に会費（5 年分・10,000円）の「振込取扱票（郵便振替用紙）」

を同封致しましたので、後輩の為に是非とも継続してご協力をお願い致します。尚、平成19年度に会費（入会）を頂いた方の数は下表の通りです。

ご送金方法

- ◇同封の郵便振替用紙でお願いします。（手数料無料）
- ◇ご都合で 5 年分一括でない場合は金額を訂正し捺印して下さい。（1 年分以上何年分でも結構です）
- ◇銀行振込の場合は下記口座へお願い致します。手数料はご負担頂ければ幸いです。
（宛先）八十二銀行諏訪支店 普通 689-629
諏訪信用金庫上諏訪支店 普通 1049944
※銀行振込の場合は差出人のフリガナ欄に必ず回を書いてからお名前をご記入下さい。（例「75 セイリョウ タロウ」）

平成19年度諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会会計決算報告
(平成19年 4 月 1 日～平成20年 3 月31日)

収入総額	7,784,244 円
支出総額	3,076,175 円
差引残高	4,708,069 円（平成20年度へ繰越）

収入の部（単位：円）

科 目	収入済額	備 考
繰越金	4,239,688	前年度より
会 費	3,526,260	356名
繰入金	0	定期預金取崩し
雑収入	18,296	預金利息
合 計	7,784,244	

支出の部（単位：円）

科 目	支出済額	備 考
拠出金	3,020,000	学校後援会へ
需要費	56,175	振替用紙印刷代
合 計	3,076,175	

諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会基金（単位：円）
(平成20年 4 月 2 日現在)

種 類	預入先	金 額	利 率	期 間	満 期 日
期日指定定期 単利	諏訪信用金庫	3,000,000	0.350	1 年	平成21. 4. 2
"	"	1,400,000	0.350	"	"
合 計		4,400,000			

クラブ後援会学年別会員数 H.19.4.1～20.3.31 会員数：356人

回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数
25	39	5	52	10	67	6	80	5	93	1	106		
26	40	6	55		68		81	1	94		107	1	
28	41	5	56	7	69	12	82	3	95	3	108	5	
29	42	7	57	10	70	3	83	5	96	5	109	4	
30	43	1	58	23	71	3	84	5	97	1	110	12	
31	44	4	59	10	72	6	85		98	1			
32	1	45	4	60	14	73	4	86	1	99			
33		46	6	61	10	74	5	87	1	100	2		
34		47	7	62	7	75	3	88	1	101	1		
35	3	48	10	63	9	76	6	89	1	102	1		
36	3	49	14	64	9	77	2	90	4	103	2		
37	3	50	18	65	8	78	1	91	2	104	1		
38	2	51	8	66	4	79	4	92	2	105	2		

クラブ後援会会員ご芳名 (敬称略)

以下の名簿は平成20年4月1日現在、クラブ活動後援会会費期限5年分をお振り込みくださっている方々です。したがって平成15年に振り込まれた方は、平成19年3月31日をもって5年間の会費が終了しますので、この名簿にはお名前が記載されておりません。ぜひ継続して入会(お振り込み)をお願いいたします。

29	今井功	42	小松一	48	木下芳	51	三村俊	57	中澤富	62	堀増泰	67	落合勝
30	井島雄	42	小松雄	48	小池賢	51	宮坂祐	57	永山直	62	増宮志	67	岡田哲
31	宮原水	42	小征弘	48	後藤一	51	矢崎男	57	山崎郁	62	坂角信	67	岡田哲
32	久保茂	42	征矢正	48	林五	51	柳井昭	57	浜崎三	62	岡角衛	67	岡田哲
33	久保田力	42	高弘正	48	後藤一	51	柳井昭	57	崎崎三	62	岡角衛	67	岡田哲
34	伊藤寅	42	勝弘正	48	東洋男	51	味沢正	57	藤田吉	62	岡角衛	67	岡田哲
35	原宮元	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	吉蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
36	小竹雄	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
37	中山元	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
38	増沢親	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
39	宮坂廣	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
40	山崎秀	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
41	矢嶋長	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
42	渡辺正	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
43	伊藤治	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
44	大窪昌	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
45	中村不	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
46	原清	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
47	原良	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
48	牛山良	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
49	後野廣	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
50	武井清	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
51	藤森吉	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
52	細田吉	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
53	伊沢義	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
54	伊東良	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
55	北原次	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
56	小松雅	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
57	立木安	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
58	樋口安	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
59	藤前千	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
60	矢崎孝	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
61	井上孝	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
62	栗林重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
63	田中重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
64	田中重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
65	中島重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
66	永田重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
67	平林重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
68	森田重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
69	細田重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
70	伊藤重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
71	岩波重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
72	小口重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
73	加々見重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
74	菊池重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
75	田中重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
76	中村重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
77	野口重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
78	花岡重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
79	林重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
80	松沢重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
81	松沢重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
82	宮坂重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
83	伊藤重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
84	小池重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
85	小松重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
86	武井重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
87	武田重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
88	勅使重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
89	野澤重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
90	浜重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
91	増澤重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
92	宮沢重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
93	百瀬重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
94	柳澤重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
95	青木重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
96	岩波重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
97	小口重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
98	小口重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
99	河西重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
100	菊池重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
101	黒河重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲
102	小平重	42	正朗	48	留一	51	味沢正	57	蔵一	62	岡角衛	67	岡田哲

73	マディーン 啓子	80	佐々木 康夫	90	安達 瑞恵	105	小口 佳納子
73	遠藤 茂	80	征矢 寿美子	90	小川 綾子	105	倉田 修治
73	小口 賢治郎	80	辻 洋	90	小川 一浩	105	小林 大悟
73	小川 正和	80	原田 信	90	濱 孝章	105	関 智恵美
73	鳥羽 研二	80	藤澤 英治	90	濱 孝章	105	征矢 孝章
73	平塚 唯史	80	藤森 民雄	90	宮坂 実木	105	竹井 卓祐
73	堀田 文昭	80	溝口 到	90	矢澤 勲	105	茅野 貴帆
73	松木 敏博	80	岡角 雅志	91	伊藤 大助	105	中村 匠子
73	宮坂 博志	81	笠原 直子	91	上原 綾子	105	堀 匠子
73	向山 和夫	81	小松 隆	91	Karlcek さやか	105	堀 匠子
73	山口 和夫	81	篠達 秀樹	91	高田 彦彦	106	牛山 聡
73	山田 雄一	81	田中 輝明	91	藤森 完一	106	征矢 友史
74	岩波 豊明	81	中野 則雄	92	笠原 健一	106	武井 友史
74	小杉 勇	81	橋爪 俊明	92	小竹 直子	106	津山 大輔
74	杉山 公宏	81	矢島 雅彦	92	内藤 真実	106	鳥山 智矢
74	高木 健治	81	山田 雅彦	92	新村 克英	106	藤森 智矢
74	土橋 英一	82	内山 隆晴	92	望月 一弘	106	王生 希有
74	中島 夏樹	82	小野 隆	93	野明 三枝	106	宮坂 有憲
74	濱 健夫	82	河西 仁	93	草間 茂樹	106	三好 吉起
74	三井 常夫	82	関 克徳	93	小林 雅典	106	伊藤 広幸
74	矢崎 義隆	82	森 真子	93	城取 英紀	107	伊藤 優美
75	有賀 文彦	82	増澤 宏昭	93	林 充彦	107	大森 彩子
75	伊藤 進	82	宮坂 文利	93	柳平 等	107	小口 真朗
75	大石 秀之	82	宮下 文利	94	島田 輝彦	107	川邊 美奈
75	栗林 利治	82	村松 健敏	95	鮎沢 学	107	久保 美和子
75	田中 富久	83	岩井 弘昌	95	行田 充	107	奥本 恵子
75	細田 史	83	五味 昭彦	95	小松 貴弘	107	小松 佑介
75	細田 通彦	83	菅沼 聖	95	斎藤 美歩	107	曾我 将宏
75	宮下 和彦	83	田中 俊彦	95	高山 規貴	107	登内 瞳
76	石井 直彦	83	御園 俊彦	95	中島 規貴	107	中村 彩乃
76	小口 直彦	83	藤森 修一	96	上原 俊樹	107	西限 俊光
76	川上 孝	83	松崎 任宏	96	五味 弘行	107	花岡 美智
76	小川 明朗	83	矢島 欣直	96	田中 雄一	107	宮坂 有香
76	坂平 良	84	赤羽 武弘	96	浜 真由美	107	吉澤 梓
76	龍岡 達子	84	赤羽 俊昭	97	池上 実一	108	朝貝 亜寿沙
76	田中 幸一	84	今村 祐子	97	市川 壮一	108	梅澤 宏企
76	中島 真一	84	小口 理子	97	伊藤 智章	108	北出 一
76	野口 幹夫	84	金子 忠昭	97	今井 英生	108	高月 昂
76	林 友則	84	小池 久美子	97	小坂 秀文	108	小澤 駿
76	山岡 恵	84	田中 麻恵	97	藤森 綾	108	小松 雅由
76	松田 昌幸	84	西川 俊夫	97	小池 春香	108	島田 実幸
76	渡辺 修	84	原藤 健紀	97	山下 将国	108	竹澤 秀和
77	小口 武男	84	平林 和之	98	後藤 孝史	108	竹村 章子
77	長田 正名	84	藤森 弘	98	中島 克夫	108	津金 みほ
77	春日 敏彦	84	古厩 真一	98	中沢 恵一	108	北出 好絵
77	北原 修彦	84	細川 洋一	98	山田 泰寛	108	平出 華
77	小林 初彦	84	八幡 純治	99	青木 大輔	108	宮澤 まどか
77	小松 正彦	85	伊藤 孝一	99	笠原 久美子	108	山田 恵介
77	五味 崇行	85	北原 武義	99	小松 正彦	108	吉田 岳史
77	武居 丈二	85	五味 高義	99	野口 真也	108	渡邊 亮
77	土橋 一郎	85	齊藤 美穂	99	和田 奈奈子	109	安藤 ゆずる
77	長田 保子	85	杉本 勉	100	朝倉 宏典	109	岩波 薫
77	林 理之	85	立花 美香	100	五味 泰史	109	牛山 さゆり
77	平出 彦彦	85	長田 里美	100	根本 和彦	109	川邊 直紀
77	渡辺 恵祐	85	平出 健一	100	濱 裕之	109	小池 慎
78	大蔵 宏基	86	伊藤 久人	100	林 敬祐	109	小松 良大
78	金光 泉	86	今井 昭徳	100	松本 加奈子	109	佐藤 絵里奈
78	北澤 幹一郎	86	杉本 一美	100	村上 豊	109	武井 洋史
78	桑原 誠俊	86	高橋 みゆき	100	吉江 将之	109	土橋 悟
78	小松 俊	86	武田 正利	101	牛山 育子	109	原 耕平
78	矢島 修	86	土屋 治彦	101	松倉 良介	109	吹附 綾乃
78	芳沢 範明	86	原田 正明	102	小林 万真	109	藤澤 秀
79	飯田 良章	87	笠原 進	102	小林 克史	109	山崎 将一
79	市瀬 章	87	藤森 伸也	102	小林 利枝	110	相原 龍太
79	伊藤 幾文	87	宮坂 玲子	102	五味 花子	110	青木 勇太
79	今井 博一	87	柳澤 泰	102	松本 義成	110	伊藤 誠悟
79	小口 高弘	88	倉科 和則	103	折井 友彦	110	片倉 正浩
79	河西 彦彦	88	小平 明代	103	越田 真二	110	小松 昌平
79	五味 弘文	88	小井 大	103	武井 佳子	110	小口 俊規
79	高砂 幸人	89	植松 秀生	103	山田 裕美	110	清水 貴司
79	高橋 則広	89	岩原 直一	104	園田 裕美	110	白尾 一平
80	藍野 崇	89	小又 一宏	104	津金 陽一	110	田中 辰行
80	織田 吉夫	89	佐々木 久和	104	丸山 徹	110	花岡 章浩
80	金井 真一郎	89	関 淳	104	宮坂 寿	110	藤森 健志
80	北沢 靖久	90	池上 明雄	104	宮坂 留理香		

三澤勝衛先生記念文庫 整備状況

三澤勝衛先生記念文庫は校舎改築で、家屋こそ新築されたものの蔵書・資料など40年前の設立当時のまま現在に至り、雑誌や資料の老朽化も進んでいる状況になっていた。そのなかで同窓会では創立110周年の記念事業として整備が計画され、運営委員会が再編されて整備に取り組んできた。

まず内容保存の意味で、パソコンを導入し研究物のデジタル化、蔵書目録のデータベース化を中心に整理を進めてきた。著書・研究論文、三澤勝衛に関する資料等のデジタル化、蔵書目録基本項目のデータベース作成は、ほぼ一段落の状況である。データベースの充実や現物との対比はこれからの仕事である。老朽化の進んだ現物の保存や、収納の仕方も今後の研究課題である。また、パソコン中に作成された資料や目録も、活用出来る状況を維持するためには、機材も含めて、継続的に維持管理していく必要がある。

110周年記念事業(3年間)は一区切りとなるが、引き続き同窓会と学校の協力を得て、運営委員会を強化して整備を継続するとともに、文庫の日常管理体制を整えていくこととする。今後も色々な形で協力いただければ幸いである。整備状況の概要は下記の通りである。

1. 館内の整備

- ・パソコン(資料作成及び閲覧用)設置 石油温風暖房機(閲覧室用) 除湿器(書庫用)設置換え
- ・閲覧室壁面への展示 先生のことば 先生の写真 先生の略歴(仮) 他の額装も含め館内壁面展示

2. 三澤先生の研究物・研究資料の整理

- (1) 三澤勝衛の「太陽黒点観測」データ(発表「BULLETIN」など)整理完了 データベース化完了
- (2) 「三澤勝衛地理研究資料目録」(小林茂樹氏を中心に1980年作成) データベース化完了
- (3) 研究論文など 研究資料のデジタル化 ほぼ終了(画面調整はPhotoshop elements 3.0による)

- ・著書・研究論文・講演原稿・三澤勝衛に関する資料・写真帳 などデジタル化 約200篇

3. 蔵書の整理

蔵書目録 データベース作成 基本項目についてほぼ終了(File Maker Pro7により作成)

(1) 開館当時三澤家からの寄贈図書文献類

- ・「寄贈書籍・文献資料」約3400項目 「寄贈雑誌」約340種類

(2) 開館後、購入・寄贈を受けた書籍・雑誌文献類

- ・単行本(約1800)・雑誌(約290種)・資料(約150)・論文(約180)

4. 三澤文庫のホームページの立上げと整備(今後の課題)

利用面では、ホームページを立上げ、図書目録や研究物・資料目録の公開などが望ましいが、係員が常駐しない文庫であり、実施に当たっては要員・経費・掲載範囲など検討すべき問題が多い。

5. 三澤勝衛記念文庫の整理を組織化し継続させ、文庫の活性化をはかる。

環境問題が大きく取り上げられている現在、三澤の思想は現在にも生きるものである。この整備を一つの契機に、学校内外での学問研究・自然研究への関心や意識の活性化に寄与出来ればと考えている。

(2008. 4. 10 委員長 金子佳正)



昭和シェル石油特約店

株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号 ☎本店(0120)210-613

代表取締役会長 細川 昭八 (51回)

代表取締役社長 細川 洋一 (84回)

専務取締役 宮坂 友比古 (67回)

常務取締役 細川 浩二 (86回)

支 部 活 動 報 告

関西支部 事務局長 吉澤啓介

会員数 262 名

支部長 上島 武(57 回)

副支部長 小倉 裕(45回)・小池俊二(49回)・藤森千弘(50 回)・中山 亮(50回)・酒井嘉也(51回)・今井文人(52回)・伊藤雄文(56回)・五味成彦(56回)・熊井巻夫(58回)

監 事 小島 宏(48 回)

幹事代表 小坂辰徳(59 回)

事務局長 吉澤啓介(57 回)

平成19年度活動内容

◇関西支部会報第 11、12 号発行

◇分科会活動

ゴルフ部会…2 回 (6 月 1 日、11 月 7 日)開催

歩こう部会…佐保路・京都洛南を歩く (4 月 7 日、11 月 3 日)開催

平成20年度活動計画

◇第 11 回支部総会

日 時 平成20年 2 月23日(土)

場 所 阪神グリーンルーム

参加人員 52名(林会長、古原校長が来会)

◇サロンコンサート「ソプラノ独唱」尾崎比佐子

◇19年度活動・会計報告、20年度活動計画・会計予算

◇部会活動の推進(ゴルフ・歩こう・会報)

◇懇親パーティー・福引き・校歌斉唱

東京支部 (東京清陵会) 支部長 小川勝嗣

平成19年度総会は例年どおり、10月第 3 金曜日(19日)『アルカディア市谷』にて開催。今回は懇親の時間をより長くできるように 1 時間繰り上げ、母校の古原正之校長、林尚孝同窓会長をお迎えして、212名の方が出席された(総会には105名)。当番幹事・74回生の皆さんのご尽力有難うございました。

平成19年は第 1 校歌の作詞者・伊藤長七先生の特別な年でもあった。平成19年 6 月 9 日には、「伊藤長七アーカイブス」記念フォーラムを千曲市の長野県立歴史館にて開催。これは、伊藤長七の教育思想と実践を伝える膨大な資料が伊藤家から歴史館に寄託され、一般公開されることを記念しての催しで、伊藤家と、初代校長を勤められた府立五中(現・小石川高校)の同窓会(紫友同窓会)、清陵同窓会など関係者により実現した。当日は150名の参加があり、そのうち約半数が清陵関係者であった。平成19年は奇しくも伊藤長七の生誕130年でもあった。10月 6 日には毎年恒例の東京校歌祭が行われ、共に伊藤長七

作詞の校歌を持つ小石川高のお誘いを受け、その持ち時間の一部を割愛いただいて、清陵同窓生26名に伊藤ひろ子さん(長七のお孫さん)も登壇して第一校歌を声高らかに響かせた。打ち上げ後、銀座・ニュートーキョーの前で、「金色の民」、「あなうれし」を道行く人々にご披露するハプニングもあった。

10月27日にはゴルフ会が久しぶりに復活、台風の最中でしたが11名が参加した。有志による清陵勉強会も100回を超えて世話人も一新し、引き続き開催を継続している。

総会案内の発送数は約 4,000 名であるが、相変わらず返信率、会費納入率の低さが課題であり、同窓生各位のご協力をお願いするところである。

東海支部 事務局長 武井久良

下記のとおり、支部総会を盛大に開催した。

期 日=平成20年 2 月 9 日(土)

会 場=キャッスルプラザ

出席者=会員21人

萩健吉氏(49回)と平林幹司氏(62回)の計があり、会議冒頭に黙祷。来賓・林会長、古原正之校長(69回)からあいさつを頂いた後、岩田昌久支部長から「支部活動の目標として①現状把握②運営組織の強化③活性化④女子会員の入会促進-4 項目に取り組んできた。新会員15人を迎え、会費納入者も97人とますますの成果を上げられた。」とのあいさつがあった。

新役員は次の皆さん

支部長=小松久夫(59回)

副支部長=笠原英城(59回)、武井久良(59回)

事務局長=武井久良(59回)=兼任

事務局次長=矢澤浩司(81回)

幹事=堀川喜代太郎(61回) 外

会計監査=岩田昌久(50回)、有賀章(59回)

顧問=山田晶(40回)、錦見高広(42回)、竹村弘(44回)、荒川建吾(50回)

懇親会(司会=矢澤浩司)

乾杯の音頭は牛山博美氏(50回)。「数年前までは『先輩を差し置いて…』という言葉が口をついたが、見回しても私より年長者が少ない」と切り出してから、退任される林会長や古原校長への感謝を込めて乾杯した。どのテーブルも昔の少年時代に還ったように談論風発、賑やかな話し声が響いた。東邦高校でブラスバンド部の顧問を務める保坂秀正氏(68回)のリードで校歌を全部歌いきり、お開きとなった。

支部総会の反省点=これまでは 2 月の第 4 土曜日に開催してきた。しかし 3 連休になったため出席増に結びつかなかった。昼の開催は特に高齢の方から好評だった。

特別講演=今回は京大の今井啓雄氏(89回)。犬山市



「きれいな水 きれいな空気
きれいな地球を 次世代へ」

クリーン&ファインテクノロジー

株式会社 ミスズ工業

精密金型・プレス部品・高密度半導体実装モジュール・医療機器関連部品

代表取締役会長 山崎 壯一(51回)

代表取締役社長 山崎 泰三(83回)

本社 諏訪市四賀3090 TEL0266-52-6611(代)

やさしさ めくまりのおもてなし

政府登録国際観光旅館



代表取締役社長 山崎 壯一(51回)

社 長 室 長 山崎 滯子(56回)

〒392-0027 諏訪市湖岸通り3-3-10 TEL0266(58)8000(代表)

に移り住んだのを機に要請、「霊長類とゲノム」の題で話していただいた。DNAの暗号からできている遺伝情報はA T G Cの4文字しかなく、人間とチンパンジーとは98.8%までが同じでわずか1.2%の違いなのだとか。専門的な話だったが、熱弁にみんな熱心に聞き入った。

北信支部 唐沢紀彦

下記のとおり支部総会を盛大に開催しました。

1. 日 時 2008年 2 月15日(金)午後 6 時
2. 場 所 ホテル国際21
3. 参加者 75名
4. 来 賓 林尚孝同窓会長、古原正之学校長

当日は、第1部として、信濃毎日新聞社主筆である中馬清福先生より、「わが想いを語る」という演題にて、ご講演をいただきました。大正デモクラシー、戦後民主主義、今後の安全保障体制のあり方等について、具体的でわかりやすい内容であり、参加者全員有意義な時間を過ごしました。

第2部は、茅野会長、来賓の挨拶、高見澤幹事からの報告の後、中馬先生にもご参加いただき、盛大に懇親会を行いました。

松本支部 事務局 山田巻義

平成19年度支部総会は、担当常任幹事が体調を崩した事から準備が整わず、年度内開催困難になり次年度に延期、支部会員及び関係各位にお詫び申し上げます。その他の活動は本部総会に支部長以下5名が出席の他、物故者並びに道志社先輩慰霊法要、伊藤長七アーカイブス記念フォーラムに各1名が参加。

20年度主要活動計画：支部総会開催、支部運営幹事会開催、支部会員名簿修正。

上伊那支部 支部長 荻野 浩

5月12日(土)、平成19年度上伊那支部総会をたつのパークホテルにて開催しました。学校より細田教頭、同窓会より林会長をお迎えし、今年は39回生から80回生までの36名が集い、賑やかに親睦を図ることができました。

学校からはクラブ活動や進学状況の報告に加え、SSHコースのアラスカでのオーロラ観測で大きな成果を挙げたことなど、また同窓会からは「伊藤長七アーカイブス」記念フォーラムなどについての近況報告をしていただき、同窓生として後輩の活躍に嬉しく感じました。

また、記念講演として伊藤外科医院長の伊藤隆一氏(58回)により「笑いは百薬の長」と題し、古典落語を披露していただき、落語の奥深い面白さを満喫。医療の世界でも「笑い」の効用が大きいとのこと、私たちの生活

にもっと「笑い」を取り入れたいものと思いました。

その他、支部活動としてクラブ後援会への支援、同窓会諸行事への参加と女性や若い会員への参加の呼びかけ、支部会員の名簿整理、また朝の通学時間帯の直通電車の増発についてJRへの要望等を今後も行っていきたい。

《支部役員名》

副支部長：伊藤隆一(58回)

幹 事 長：大森尚人(68回)

幹 事：古村憲資(59回)、土屋隆(60回)、林靖(62回)、勅使河原明英(66回)、小澤利長(78回)、福島正寿(80回)、橋本実樹(83回)

事 務 局：加島範久(70回)、赤羽博(78回)

会 計：橋本実樹(83回)

岡谷支部 支部長 花岡 粧好

支 部 長 花岡粧好 (68回生)

副支部長 佐原一誠 (64回生)、小口憲司 (69回生)、竹村文男 (72回生)

事 務 局 〒394-8611 岡谷市郷田 2-1-8

諏訪信用金庫内 土橋和彦 ☎0266-23-4567

《活動内容》

同窓会事業への参加促進

支部総会及び本部総会参加促進

支部総会参加者95名(39回生～103回生)

来賓として古原校長、林同窓会長を迎え今井竜五岡谷市長(74回生)の出席もあり盛んな総会が行われた。新役員の選任に続いての懇親会では「孫、病氣、旅行の自慢話」を禁句とし、約2時間の懇親会は大変な盛り上がりで世代を越えての交流が図られた。参加者は若さとエネルギーを得、再会を約し帰路についた。

懐かしい母校の帽章、襟章、ボタンなど販売したところ短時間で完売となり、往時の思いを一入深く感じた本年度の総会であった。岡谷支部同窓会は年々参加者が増え、楽しい集いとなっている。

支部役員会 (20.1.26) 参加25人

支 部 総 会 (20.2.19) 参加95人

本部総会支援のための役員会開催 (19.5.22)

下諏訪支部 前支部長 小口 剛

平成19年度の行事として、7月に納涼会、本年3月に総会が行われました。

納涼会においては、SSH事業の一環で米アラスカ研修に行きオーロラ観測をしてきた現役3年生の二人、清水伸悟君、山田希恵さん(111回生)の体験談を聞く機会を得ました。忙しい勉強の中、しっかりとしたプレゼン資料を用意し、お父さんやお爺さんに相当するような先輩



創業 仙 岳 シヤブシヤブ
ふぐ料理
天 ぶら

代表 小 口 達 夫
小 口 慶 一 郎 (84 回)

諏訪市湖岸通り 5-17-6
TEL 0266 (58) 3515

処方せん調剤 漢方薬

有限 二 葉 薬 局

会 長 井 上 彦 次 (42回)

会 計 浜 正 一 (70回)

薬剤師 松 木 優 (72回)

社 長 井 上 幸 彦 (84回)

〒392-0026 諏訪市大手1-3-2
TEL 0266-52-1242
FAX 0266-52-3460

達を前に堂々たる発表で頼もしい限りでした。自分の進みたい方向に向かいしっかり頑張ってゆくよう激励しながらの交流会となりました。

総会は、林同窓会長、古原学校長をお迎えし、50名程の参加を得、懇親を深めました。総会議事は出来るだけ短く、懇親交流を出来るだけ長くの方針のもと、その通りの進行で、ワイワイガヤガヤ、それぞれの元気を披露する場となりました。

H20年度は以下の役員体制で進めることとなりました。

支 部 長 野澤彰治郎 (61 回生)

副支部長 高木鉄也 (63回生)、小松新平 (64回生)

事務局長 中村國彦 (65回生)

幹 事 学年代表者 20名

諏訪支部 支部長 石城祐吉

例年通り昨年11月支部総会を開催。約120名が集い、和やかなうちに同窓生の懇親を図ることが出来ました。

近年やゝもすると若年層の同窓会離れを危惧する声もあるようですが、自らを振り返って見ますと、幹事学年を機に改めて同窓の結束がなされたと記憶しております。当支部は地元で同窓生も多く、支部として特段の行事を催すまでもなく、日頃から様々な形で同窓生の交流が為されており、それだけに役員の選考を通し次世代へどう継承するかが「キー」になると考えます。今後とも地元支部として、当支部の活性化こそが同窓会全体の活性化に繋がるものと自覚し、支部運営を進めてまいりたい。

茅野支部 事務局長 北原正信

茅野支部は、予算無し、事業計画無しで、年1回総会を開催して会員の親睦を図っている会であります。

茅野支部総会は、平成20年2月2日(土)に、茅野駅前マリオローヤル会館で開催しました。林会長・細田教頭先生のご来席をいただき、加えて、記念講演の講師(50回生)の地元在住の他支部同期生の方々にもご来席いただき、総勢70人の出席でありました。

当支部の役員任期は2年で、改選の年に当たり次の方々が承認されました。

支 部 長 牛山 俊 (61回生)

副支部長 上條 雄 (61回生)

事務局長 北原正信 (69回生)

尚、支部活動を実質的に担っている幹事の選考に当たっては、幹事の増員をしながら若い世代への引継を考慮した人選を現在の幹事に任せるとしました。

記念講演は、東京外国語大学名誉教授 中村平治先生(50回生)に「インド往還50年 -私がインドで得たもの-」と題して、インド文化に大変造詣の深いお話をしていただ

きました。引き続いて懇親会にうつり、宴が最高潮に達したところで、当支部の財産であります校歌全文の横断幕に向かって校歌の斉唱で終宴となりました。

原支部 前支部長 堀内元長

原支部の総会を、平成20年2月24日(日)午後4時より、林同窓会長・古原学校長のご臨席を得て、当村の「樅の木荘」にて開催した。

物故会員への黙祷・来賓祝辞・自己紹介それに第75回生代表による「定期総会についての話し」の後、支部役員の改選等を行い、総会は無事終了した。

総会後の懇親会は終始和やかなうちに3時間が経ち、最後に校歌を斉唱して午後8時にお開きとなった。

◎新役員 支 部 長 荒木桂男 (63回)

支部幹事 荒木敬悦 (72回)

お願い

当原村に移住されている同窓会員の皆様は、是非原支部にご入会を。(連絡先 Tel 0266-79-3579 堀内)

富士見支部(岳陵会)

支部長 小池博之・川合弘人(事務局)

富士見支部(岳陵会)は2月3日富士見町富里の味彩で、総会を開き25人が出席した。56回生で山梨大学工学部名誉教授の清水東さんが『環境問題とエネルギー』の演題で記念講演した。

林尚孝会長、細田教頭をお迎えして本会、母校の近況についてご報告をいただき、懇親を深めました。

清水さんは、講演の中で世界のエネルギー資源埋蔵量、二酸化炭素による地球温暖化の推移について『将来的に化石燃料に頼れない状況にある』と述べた。一方で、原子力発電の危険性も指摘。『欧米では原発からの転換を図っている』と述べた。

その上で、『日本ではエネルギー開発予算の91%を原子力に集中させ、開発予算の総額は、世界の中で突出している』として、日本のエネルギー開発の方向性に疑問を語った。今後期待されるエネルギーとして、化石燃料の有効活用、燃料電池、太陽光発電、風力発電、小水力発電などを挙げた。

●主な活動内容

1. 支部活動強化のため、新規(若年)会員への呼びかけ
2. 本部定期総会及び支部総会参加促進など
3. 物故会員への弔慰、葬儀式での弔旗の掲揚など
4. 支部3役員会(20・1・9)
5. 支部地区役員会(20・1・19)
6. 支部定期総会(20・2・3)
7. 東京富士見会との交流

整形外科 外科 産科 婦人科

立 木 医 院

立 木 正 純 (38 回) (整形外科)

(日本体育協会公認スポーツドクター)

(山本喜市先生顕彰碑保存会会長)

(全日本スキー連盟強化本部スポーツドクター)

立 木 委 枝 (産婦人科)

〒392-0004 諏訪市諏訪1丁目22-24

電話 0266-52-1074

医療法人 順 恵 会

伊藤外科医院

院 長 伊 藤 隆 一 (58 回)

医学博士

長野県上伊那郡辰野町大字伊那富7483

TEL 0266-41-3388

学 年 会 短 信

回	名 称	活 動 内 容 ・ 幹 事 短 信
38		平成19年 5月20日、諏訪中学卒業70周年を迎え、88才の米寿の祝を兼ね同期生会を諏訪湖畔のホテル鷺の湯で開きました。15名の出席があり70年間の思い出をかり、旧交をあたため更なる健康と長寿を祈念しあいつつ盛会裡に別れました。なお、今回をもって同期生会は中止することにいたしました。(幹事/小林克己 ☎64-2063)
40	述志会	近々米寿を迎えようとする年齢になりました。今年 2 月に出された級友便りによると、28名中まあまあ元気に暮らしている方は20名ほど、それでも何らかの病を持ちながら、病と上手におつきあいしているという状態です。けれど、まだ元気で仕事についている方が10名ほどいます。会社の社長、障害者の支援活動、交通安全の仕事、図書館の運営責任者、短歌の会の代表者、人権擁護の仕事などを行っています。海外へ出かけ、よその国、そこの人々から生きる力を得ようとする方もいます。外出の不自由な方も、それぞれの生き甲斐を求めています。いつまでもがんばっていきたいと思います。(幹事/加々見一郎 ☎65-3420)
45		「学年会だより」をご覧ください。
46		「学年会だより」をご覧ください。
48		平成19年度には、1 部、2 部、3 部の同級会、並びに、東京白樺会の同年会が行われ、お互いの無事を確かめあい、旧交をあたためました。また、東京白樺会から「学窓」第 7 号が発行されました。各会とも平成20年度も会合が予定されておりますので、多数の皆様のご参加をお願いします。(幹事/木下芳英 ☎23-5704)
50	互励会	「学年会だより」をご覧ください。
51		当51回生は、毎年春、秋 2 回の同級会を開き旧交を温め合っています。(毎回35～40名出席) 本年の予定は、6 月 4 日(水)諏訪大会として「浜の湯」に於いて夕方から予定しており、当日は朝から「諏訪湖カントリー」でのコンペ開催。又一方、半日コースのバスツアーにより「故郷の遺跡を訪ねて」と銘うち、黒曜石の宝庫としての長和町(佐久)及び曾根遺跡の研究見学(市博物館)を同級生の戸沢充則君の解説指導の下に行います。また、東京大会は例年どおり中野サンプラザ15Fに於て、1 1月 12 日(水)予定しています。一方、スポーツ面では、同級生によるシニアクルー(51漕艇)の遠征も毎年欠かさず各地へ出漕しており、全国マスターズ・レガッタ(名古屋愛知池)大会出漕も今年で連続12回を数えます。今年は 2 月に亡くなった遠藤智義君の弔い合戦で頑張ります。(幹事/大堀京一 ☎57-5008)
52・55	双樹会	「学年会だより」をご覧ください。
60	睦和会	60回生は今年古稀を迎える。2 年に 1 度校歌を訪ねる旅を、中国、ドイツ、台湾(南洋東亜)と行った昨年で終了とした。毎年(諏訪・東京交互に)開催している睦和会総会を今年は 7 月27日(日)「古稀を祝う総会」として白樺湖池の平ホテルにて盛大に行う。毎回約70名余の出席があり今年は100名を目指す。来年は国外から国内に移して利尻、礼文島+北海道の旅を 3 泊以上で企画中である。(幹事/笠原文武 ☎53-0506)
61		同期の笠原寛君が、このほど洋画で日展に入選したのを機に絵画をはじめ、自分で作ったものを出し合い、作品展を開催する計画をしました。日時、会場等は未定ですが 5 月中に行いたい考えです。総会前になるので会報には間に合いませんので、詳細が決れば何らかの方法で同窓会にお知らせし、ご協力いただければと思います。 恒例の行事 *6 月下旬 61回生合同ゴルフコンペ 毎年 8 組30名余りくらいの参加。今年度は諏訪湖 C C を予定。 *8 月 9 日(毎年曜日に関係なくこの日) 納涼会開催 会場諏訪市内。出席者約35人。 *12月23日(天皇誕生日) 忘年会 会場諏訪市内。出席者約35人(ここ数年) (幹事/土橋 勉 ☎72-4840)
63		20年 6 月28日総会終了後、学年会を午後 6 時から「酒屋旅館」(湖岸通 3-4-16 Tel0266-52-2221)で行います。会費 6000 円、多数参加してください。(幹事/松木義文 ☎58-1185)
65	八日会	「学年会だより」をご覧ください。
68	けっこう会	68回生諸君! 久しぶりに集い、語り合おう! 同窓会総会(6 月28日午後 1 時30分・会場ホテル紅や)終了後、下記により、68回生学年会を開催します。還暦を過ぎた皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。是非ご都合をつけ、学年会にご参加ください。(出欠の連絡不要・「第414回けっこう会」と同時開催) ・日時: 6 月28日(土)午後 6 時30分から ・場所: 紅蘭 諏訪市湖岸通り 5-17-7 Tel 0266-58-1443 ・会費: 3,000 円(当日徴収) (幹事/伊藤八郎 ☎52-3769)
71		「学年会だより」をご覧ください。
72	篝火の会	この 1 年間、例会のほか奥霧ヶ峰ハイキング(7 月)牛首峠きのか狩り(9 月)果たせなかった幻の修学旅行第 2 弾「奈良さくら路の旅」(3 月)などを楽しみ「60になったら博浪沙へ行こう」と準備中。02年 8 月21日に立ち上がった篝火の会HP掲示板「清陵のお庭」は今年 2 月20日ちょうど 5 年半でアクセス 50000 を達成、毎日談論会が繰り広げられています。学年会は 6 月28日午後 6 時半から伊呂波(諏訪市大手、☎0266-58-0365)で開催。会費 3000 円。(幹事/小泉悦夫 ☎58-2510)
73		2 年後には卒業40周年の同年会も企画したいと思っています。何か面白い企画がありましたら、森まで連絡をお願いします。(幹事/森 千章 ☎72-2259 e-mail: morisen@extra.ocn.ne.jp)
92		「学年会だより」をご覧ください。

学年会だより

45回生 (幹事/小松一弘 ☎52-6911)

昨年は、「風林火山 由布姫の里」の影響で、諏訪地方も県内外から多くの人達が訪れました。私も久しぶりに湊の小坂観音様にお参りしてきましたが、諏訪湖の彼方に遠く八ヶ岳を眺め、旧制諏訪中学時代に、諏訪湖一周のマラソン大会で5年間走った頃をなつかしく想い出されました。

上社近くの諏訪市博物館(平成20年1月1日～3月30日)で、「なつかしの諏訪写真展」が開かれました。明治から昭和にかけての諏訪の移りかわり、なつかしい写真や貴重な歴史写真が展示されました。その中で同期生の故勝山孝一(甲一)兄の「奇跡のカラー写真」が初公開されていました。

博物館の説明によると、「諏訪の風景や人間の暮らしぶりを写した写真は、100年以上以前からありますが、それまでは白黒写真ばかりで、今では当たり前のカラー写真がいきわたっているようになったのは、30数年前の1970年代からです。写真の歴史からすれば、カラー写真は比較的最近普及したものでしょう。

ここに展示したカラー写真は、大手町の勝山写真館店主、勝山甲一さん(故人)が1950年代前半(昭和20年代末)当時、一般には手に入り出来なかった国産カラーポジフィルムを使って撮影したものです。今回、初公開になりますが、おそらく諏訪市内を撮影したカラー写真としては、もっとも、初期のものになったでしょう。(当館所蔵)それらのカラー写真の中には、諏訪湖上での下駄スケートの様子(昭和20年代後期)や、諏訪湖のヤツカ漁(昭和20年代後期)の写真もあり、あの頃を思い出されました。また、同館では、勝山兄の父君の、「飛行写真展～昭和初期、諏訪にすごい写真家がいいた～」も展示されていました。展示品の説明には、「勝山為如(1901～1949)は、昭和初期、時事新報諏訪支局長を務めたジャーナリストです。航空写真がまだ珍しかった時代、小型複葉機に乗って危険な南アルプスや八ヶ岳上空を飛行し、ガラス乾板による写真撮影を行いました。昭和6年(1931年)には、民間人として初といわれる富士山の空中撮影に成功しています。今回は、昭和初期の諏訪湖周辺の町並みや、諏訪神社などの空中写真を含む39点を紹介しています。」とありました。

昨年の「同窓会定期総会(6月30日)」には、関弥之助君、宮坂裕君、小松直樹君と私が出席し懇親会では、青春時代を懐かしく語りあいました。

今年、諏訪湖も2季ぶりに御神渡りが出来、八剣神社の拝観式が2月2日に行われました。新年の「長野日報」のふるさとの賀状(1月1日付)に、今年も北海道から河西章君や、東京から岩波一寛君の「ふるさとを想うたより」あり、うれしく思いました。

お互いに、傘寿をすぎた同期生諸兄のご健勝を祈っています。

46回生 (幹事/滝沢 潔 ☎27-7737)

平成20年を迎えました。昭和15年諏訪中学入学以来、同級生が皆、傘寿を過ぎました。恩師の埋橋先生(国語)は白寿を迎え、小林先生(歴史)は満93才を迎え、両先生ともなお健在です。

平成19年度46回生同期会総会を10月27日、上諏訪温泉湖山荘で行いました。「皆さん高齢になり集まってくれるかな」と心配しながら開催しました。16名の参加があり、久しぶりに顔を合わせ、旧友共々諏中時代のことや今の暮らし振りなど懐かしく語り合い少年に逆戻りして、日本一長い校歌を声を張り上げ歌い、励まし合いました。今年度事業として同期会報第13号の発行と、「諏中46回同期会作品展」を2月20日～25日諏訪市榎「まるみつ」で開催することにしました。戦時中であまり芸術文化の勉強に縁の薄かった私たちではありましたが、中には素晴らしい作品を出品してくれる者も、希望者もあり実施することにしました。まだまだやれると張り切っております。

50回生 (幹事/宮阪芳久 ☎23-1176)

第50回生は互励会として毎年諏訪と東京で同期会を開いています。入学時には考えもしていなかった学制改革で、6年間の中高一貫教育を受けられたのは私達入学年次周辺の4学年への嬉しい贈り物でした。

昭和19年諏訪中学入学、昭和25年諏訪清陵高校卒業、いずれも御柱祭の年、



諏訪名産
初霜

不二屋代表取締役 新村 良雄(四九回)
新 村 隆(八五回)
下諏訪町四ツ角
TEL(0266)27-8505
FAX(0266)28-7095



株式会社 小野製作所

代表取締役 小野 繁 男(75回)

本 社 〒394-0034 長野県岡谷市湖畔一丁目14番22号
TEL (0266) 23-4026代 FAX (0266) 23-8551
辰野工場 〒399-0428 長野県上伊那郡辰野町伊那 7461-31
TEL (0266) 41-5655代 FAX (0266) 41-5657

第二次大戦末期の苦しい時代に学問と勤労奉仕に励み、戦後は教科書もノートも乏しい中で、向学心に燃え、又スポーツに自治活動に頑張りました。在学中には出来なかった修学旅行は後年になってやっと実現しました。

6月東京、8月諏訪での昨年の互励会には、諏訪湖一周で勇名を馳せた鈴木仁郎君が2つの会に出席、健康の為に歩くことの大切さを同期生全員に向けて熱心に説いたことに感服。再来年の御柱祭には私達は78才～80才に到達、皆が元気で生涯13回目の大祭を迎えたいものです。

初めての清陵祭昭和23年のファイア・ストームに入る前、千野光茂校長が話された「曾根崎心中」の物語を思い出し、青春時代肩を組んで歌った校歌の各章を忘れずに居る私達です。なお今年度から学年幹事は村上賢次君から宮阪芳久に交替しました。



52・55回生 (幹事/千葉春男 ☎23-1176)

「よく集い、よく遊び、夢を追う」双樹会は、東京例会が毎月第3月曜日に日本橋扇寿司(55回小林誠三店主)で、諏訪

例会が毎月7日に上諏訪いずみ屋豆腐料理店で几帳面に実施されている。メンバー相互の情報交換の場であるのは勿論だが、特筆されるべきは様々なアイデアが提案され、これが素早く具現化されることであろう(創立110周年記念同窓会名簿巻末参照)。

因みに在学中よりクラス別に学級新聞の発行や卒業アルバムの制作の実績があり、卒業後は記念誌2冊、双樹会データバンクの発行、脚本・監督・主演全て自前のビデオ映画の製作等など、どうもわれら一族は、自己主張が強いのか、ものづくりが大好きらしい。

平成17年度夏、東京双樹会主催のビールパーティ(諏訪からもマイクロバスで大挙して参加)にて歓談し



た折、同好の士にて美術展をやろうと言う意外な話がまとまった。どちらかというと実直無粋な？盟友にこのような芸術家たちがいたとは！

現役リタイヤ後始めた者が多いのでいささかの不安無きにしも非ずであったが、そこは直ぐやる双樹会メンバーのこと恩師の故宮下卓郎先生、立川義明先生、牛山之雄先生から賛助出品も頂くこととなり清陵双樹会美術展と名づけるや、会場を上諏訪駅前まるみつ百貨店5階市民ギャラリーと定めて第1回展を会期H.18.11.1～6の間、第2回展を会期：H19.10.31～11.5の間開催した。1、2回展とも出品者16名、作品数約40点、連日双樹会メンバーを含み予想を上回る観覧者で賑わった。そして一同に会した貴重な作品群の図録を残さんとて、茜色表紙A5版オールカラーの『2006清陵双樹会美術展作品集I』が刊行された。

さて毎回諏訪エリアで開催の双樹会総会であるが、18年度、19年度は、共に美術展会期中に実施された。この会場で18年度は清陵高校湖周マラソン連続30回完走の韋駄天白川太一君を、19年度は「よく集い、よく遊び、夢を追う」双樹会創生の中核であり、清陵のこととなるややたらに燃え上がる清陵馬鹿の権化三井光之君と林尚孝君を顕彰し、芸術家仲間渾身の手作り表彰状、感謝状、記念品などを双樹会の総意として三君に謹呈した。



H20年度は、第3回双樹会美術展を10月29日～11月3日開催の由、この期間中に双樹会総会も開く予定である。そしてわれ等の芸術家たちは、それまでに第2回展の作品集Ⅱを発行するのだと言っている。

65回生 (幹事/青木成雄 ☎53-0072)

65回生から次の3点についてお知らせします。

1、校歌の伴奏用テープ作成について

これまで同年会における校歌斉唱は、無伴奏で蛮声を張り上げていましたが、それでは寂しいとの意見があったため、昨年6月に諏訪響の理事長である65回生の保坂俊正君のピアノ演奏による伴奏用テープを作成しました。

早速6月9日に開催した同年会ではこのテープを使用

医療法人 栗林眼科医院

院長 栗林利治 (75回)

〒392-0001 諏訪市大和 3-5-5
TEL 0266-52-2648

エヌピーエス有限会社

代表取締役 渋江泰三 (75回)

〒392-0015
諏訪市大字中洲 4789-10 (第一精密工業団地)
TEL(0266)52-1735 FAX(0266)52-0804

し、伴奏付きの校歌斉唱で大いに盛り上がりました。他の学年でも伴奏付きの校歌斉唱をしてみたらどうでしょうか？。テープを希望される場合は、学年幹事の青木まで連絡をください。

2、出版の紹介について

この3月に、65回生の三井嘉啓君が「世界が見る日本の魅力と通知表」（三井森雁、ペンネーム）を出版しました。在職中に3年間ずつ赴任したアメリカとイギリスを始め、私的な旅行を含めて訪れた50カ国での体験から、市民が日頃肌で感じている“ナマの声”を基にして、日本に対する見方・評価をまとめたものです。とかく内にこもりがちな日本人を世界の中に引っ張り出し、日本の存在の意味や魅力を知らせてくれ、勇気を与えてくれる本です。ぜひ一読をお勧めします。

出版社は「幻冬舎ルネッサンス」で、価格は1,400円です。諏訪地区では、ツタヤ 諏訪中洲店、平安堂 諏訪店、笠原書店 岡谷本店、松本地区では、リプロ松本店、宮脇書店 松本店、ツタヤ南松本店、全国では、紀伊國屋書店、ジュンク堂書店、などで求めることができます。

3、「八日会」について

昨年も紹介しましたが、諏訪地区在住の65回生有志が集まっての飲み会である「八日会」は引き続き実施しています。毎月8日の6時30分から上諏訪駅前の「いずみ屋」で固定開催していますので、気軽に参加してください。諏訪地区在住者以外でも諏訪へ来た際にはぜひ顔をを出してください。

71回生（幹事／渋江利明 ☎58-5470）

100本のギターで「禁じられた遊び」を

以前同窓会報で「古典ギタークラブ」の活躍が報じられた。それを見て、同クラブ発足メンバーの一人として、私はなつかしさと嬉しさと誇りとを同時に感じた。夏休みのある日、一度練習を見たいと思い、母校を訪れたが、たまたまその時は残念ながら練習は終わっていて皆さん帰った後であった。

「古典ギタークラブ」は私が3年の時、有志10余人が集って「クラシックギター同好会」として産声をあげた。その時から数えるとなんと40年！という歳月が流れている。この40年間の消長は知る由もないが、こうして現在も脈々と活動を続けている。なんとすばらしいことであろうか。「クラシックギター同好会」最初の演奏会は清陵祭であった。当時国語教室の東角に「小講堂」



文＝千野好昭

というのがあって、そこが会場だった。演目は「グリーンズリース」、禁じられた遊び」など、合奏、ソロ含めて小品十曲あまりだった。清陵祭フィナーレのファイア・ストームには各部伝統の幟が林立する。あたかも戦国時代から引き継いでいるかのような、年期の入った幟旗…我々も欲しいと思った。そこで部員の一人が作ってくれることになったが、出来てきたのは「古典ギター同好会」となっている。聞いてみたら「クラシックギター同好会」では文字が多すぎて入らない、ということで、以来「古典ギター同好会」となった。あの時の幟旗は今はどうなっているだろうか。2代目、3代目になっているのだろうか。

私はこの伝統ある「古典ギタークラブ」に籍を置いた諸氏に提案したい。ゆくゆくは母校で100本のギターで大演奏会をやるのではないかと。まずはメンバーの名簿が必要になる。これは私が責任をもってデータベース化するので現役メンバーはもとより、かつて在籍した諸氏は下記のメールアドレスにご一報いただきたい。小島君、井上君、伊藤君…なつかしい面々をはじめ皆さんの連絡を待っています。 sp9f9hd9@oboe.ocn.ne.jp

92回生（幹事／笠原健一 ☎58-5346）

卒後20周年記念 奉仕活動・同期会のお知らせ

名歌“五万節”に唱われているように、92回生は「清陵出てから20年〜♪」を迎えます。そこで、卒業20周年記念同期会〜“五万節”を唱う会〜を企画しました。平成20年7月12日(土) 14:30〜奉仕活動（清陵高校集合。窓ふきなど）、16:00〜懇親会受付（於：諏訪シティーホテル成田屋 2F、諏訪市大手 1-14-5 上諏訪駅より徒歩3分。駐車場極少。電話 52-4500）、16:30〜19:00 頃懇親会、会費 7000 円。懇親会のイベント「恩師のお話→記念写真→五万節→談話会→校歌→民」。クラス担任の恩師を多くご招待しております。2次会はクラスごと開催予定。5月末までに下記のクラス幹事から92回生の方の現住所／実家に連絡が行くと思いますが、届かない場合は、幹事へ出欠の電話をお願いいたします。

●クラス幹事（1部：前島偉 62-4718、2：原尚彦 24-8261、3：小松広明 52-7870、4：岩波寛 54-1873、5：早川秀策 62-4328、6：笠原健一 kenkasa@imail.plala.or.jp、7：笠原広和 24-4745、8：両角太 27-0024）

75回生（幹事／柳平千代一）

本年は我々75回生が当番幹事です。6月28日(土)の同窓会には多くの皆様のご参加を期待しております。

南信堂歯科医院

院長 林 隆 廣 (75回)

〒394-0003 岡谷市加茂町 2-16-12
TEL 0266-22-3341

はやし小児科内科医院

院長 林 晴 彦 (75回)

〒392-0131 諏訪市湖南大曲 15
TEL 0266-53-7888

特 別 寄 稿

初代校長千野光茂博士 は大物だった

伊藤 力司 (56回生)



▲ 写真＝長野日報社提供

戦後の学制改革で清陵高校が誕生した 1948 年、初代校長に招かれたのは京都帝大助教授だった千野光茂博士だった。千野先生は旧制諏訪中学卒業(7 回)後、文検に合格して旧制諏訪高女(現二葉高校)で教鞭をとりながら、独学で続けたショウジョウバエの遺伝学研究で国際的に認められた生物学者。同窓会初代会長も併任した。07 年 11 月諏訪市博物館が博士没後 50 年記念特別展を開いた機会に、座談会「記憶の中の千野光茂先生」が開かれ、当時を知る OB 約 30 人が先生のことを語り合った。

林尚孝同窓会長(52 回)を司会役に宮坂広作東大名誉教授(50 回)、高林良治元岩波書店編集部長(52 回)、先生の三男光久氏(59 回)が話題を提供、さらにフロアの参加者からもエピソードが語られた。ここで浮かび上がったのは、研究一筋の人生で培った人格からにじみ出る大物校長のイメージである。

「京都では研究に夢中で映画など見たことがなく、戦後上諏訪へ帰って坂田三吉を描いた『王将』を見たら面白かったよ」と目を輝かせたり、お公家さんのような風貌で「ボクは管理者じゃなく研究者だからね」と、教師たちの常識的校長観をくつがえす発言をしたり。だが端艇部員が国体出場後の慰労コンパで酒を飲んで警察沙汰になり、卒業延期を覚悟した時に、校長は「君達は何も心配するな。僕が全責任を持つ、しっかり勉強したまえ」と、部員一同を感涙にむせさせた。

1950 年 6 月学友会が記念祭を夏休み前にやると決議した時、学校側は 11 月 3 日にしなさいと言ってきた。



千野光茂初代校長
三男・千野光久氏(59回生)
提供

雨天体操場の全校集会で千野校長は「学友会の決議など認めんぞ」と叫び、集会は緊張した。高林良治談論部長が「学友会は諏中以来 50 年の自治に基づいて民主的に決めた、顧問の先生方が反対するのはおかしい」と反論すると、校長は黙って聞いていたが間もなくその場に倒れた。軽い貧血による発作だった。高林部長は上級生の助言で、保健室に運ばれた校長のもとへ見舞いに行き、改めて真意を伝えた。学校側は結局夏休み前の記念祭を認めた。これが当時語りぐさになった「清陵生、自治を守る」の一件。懐かしい一こまだ。

スバル

山梨大学 理事 副学長

塚原 重雄 (57 回生)



テレビから谷村新司が歌うスバルの歌声が朗々と流れている。その背景に広大な宇宙の星雲が、青い地球が描かれている。たまたまこれを見ていて、今年の夏訪れた、スバル天文台が思い出された。高度 4200 メートルのマウナケア山頂、雲海の上にある、日本の技術の結晶といわれ、世界最高の反射望遠鏡を一度見学してみたいという願望がやっとかなった。72 歳の小生にとって高山病が心配でしたが高度 3000 メートルにある「オニヅカセンター」で 2 時間ばかり過して、体を慣らし、ゆっくり歩く、かがまないようにという案内人の忠告を守って、山頂まで到達できた。

マウナケア山頂に銀色に輝くさまざまな形をした天文台の群れ(アメリカ、カナダ、フランス、イタリア、台湾等 13 カ国が天文台を建設)は別世界にいるような気分でした。夕暮れ時、山並みと雲海の中にゆっくり落ちてゆく夕日の真っ赤な輝きは感動でした。陽が落ちて真っ暗闇の中、空を見上げたときの宝石を散りばめたような素晴らしい星空は、また、印象的で一生忘れることは無いでしょう。

高所に体を慣らすためにしばらく滞在したオニヅカセンターは天体研究に来ているいろいろな国の人たちの宿泊所、休憩所で、様々な国の言葉が飛び交っていた。若い日本人の研究者がその中に混じって対等に議論をしている姿は日本の未来を象徴しているようであった。

世界的に実施された、小中高学年を対象とした経済協力開発機構(OECD)の国際学習到達度調査(PISA)の結果、日本の小中高学年は、この数年にわたっ

て、数学的、科学的応用力が低下していて、文科省は最早わが国の学力は世界のトップ水準から脱落していると発表しています。日本の将来にとって、大変憂うべき事態といえますが、幸い、数学、科学に強い諏訪清陵高校は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され、天文学者の藤原咲平先生、古畑正秋先生を輩出した伝統があり、是非ともこれからも科学立国をめざす日本の、世界の、トップとして活躍する人材を諏訪の地で育成して欲しいものです。

交通機関、ITの目覚ましい発達、地球を村にした。否応無しに、国境、国籍を超えて、情報が飛び交うことになった。グローバルな活動、交流がもっともっと高校、大学にも、地方にも、日本全体にも広がることが期待されるスバルへの旅でした。たまたまこの時期に、NEDOの肝いりで燃料電池、水素技術開発センターが山梨大学のクリーンエネルギーセンターを中心に山梨の地に設立されることになった。化石燃料に変わる世界の新しい燃料電池研究のメッカとなって、世界中の様々な国から、新進気鋭の研究者が多く集まるような施設にしたいものだという夢の実現に向かって、谷村新司のスバルを口ずさんでいます。

琵琶湖周航記

高木 鐵也 (63回生)



大先輩 (16回生) の小口太郎が作詞した琵琶湖周航の歌にちなんで琵琶湖で漕ごう、という話が持ち上がったのは2006年1月である。

それより前、丁度還暦の年に62回生の先輩諸氏に勧められて、オールの握り方から始め、メンバーの確保に苦勞しながら年3回のレガッタ (春の信毎、愛知マスターズ、秋の下諏訪) に常連として参戦するまでになって4年を数えていた。

その年の5月に琵琶湖の下見をした時、湖岸道路で見たのは打ち寄せる強い波である。諏訪湖の比ではない。まさに海の波だ。いつものナックル艇でなく昔の6人漕ぎのフィックス艇でないと危険だ。幸い母校に古い艇が保存してあるのが分かり、それを借用して練習することができた。

準備は周到を極めた。各人に、人員把握、コース設定、クルー編成、旅館と食事の手配、会計、現地のボート手配、警察への届出、観光担当、バスの運転などを割り振り、それぞれが確実にこれらをこなして計画通り進む様は、さすがにそれなりの実績を残してきた者の集団、と感動す



ら覚えたものである。

2007年7月22日一年半の準備、練習を経て遂に琵琶湖へ向けて出発した。

参加メンバーは62回生9名、63回生5名を中心に応援のご婦人方、先輩、スナックのママ、遠路駆けつけた仲間、更には51回生のクルーが旅行の途上奥様方共々合流することになり全部で35名の大部隊となった。

コースは第一日目23日に今津を出航、竹生島経由長浜へ、二日目の24日には彦根へ、三日目25日多景島経由西岸の安曇川 (アドガワ) へ渡り、最終日26日には安曇川から再び今津の艇庫へ帰着する全60キロ余り、高島市から借りた艇は歌にちなんでその名も「千秋・太郎」号である。

梅雨明けが遅れて直前まで天気がグズついていたが、丁度出航の日に滋賀県に梅雨明け宣言が出て、全行程に亘ってすばらしい天気恵まれた。

まずは母校伝統の戦いの歌「金色の民」で氣勢を上げてから乗艇だ。兎に角向こう岸が見えないというのが諏訪湖との一番の違いだ。

第一日目にかんりの風と波を受け、さすがに琵琶湖は違うと緊張させられたが、それ以後は二日目、三日目とも鏡のような湖面が我々を迎えてくれた。最終日の最後に今津の艇庫が遥かに見えてきた頃、急に嵐が来て凡そ3分間伴走の漁船の曳航を受けたのみで、ほぼ完漕とっていいだろう。

漕ぎは行程に従い約10キロを一区切りとして、艇と伴走漁船にそれぞれ交代で乗り込み、10分漕ぎ3分休みのセットで10クール前後だ。フィックス艇のオールは長くて重い、一年余りの練習の甲斐あってキャッチも上手く揃っている。

尻の皮が剥けてお互いに絆創膏を貼り合う仲になったのもご愛嬌だ。竹生島の土産物店のおばさんは、我々が諏訪湖から来たと聞いて「あ、小口太郎のところや」と嬉しそうだったし、多景島では工事の職人さんが次々に上陸してくる白髪頭の群れを見て「絶対学生さんやと思たのに…」と呆れ顔だったのが印象的だ。

今津の浜へ乗り付けて全員で肩を組み、勝利の歌「あな嬉し」を歌い踊った時身体底から湧き上がった達成感、充実感は例えようがない。我等が青春未だ枯れず。こんな感覚を前に味わったのはいつのことだったろう。4泊5日の大冒険ロマンはこうして無事に終了した。毎晩の旅館では大宴会と大合唱で盛り上がったのは言うまでもない。天に感謝、琵琶湖に感謝、仲間と家族に感謝。

ありがとう。

計 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(平成20年 4月30日までにご連絡をいただいた方々)

お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生
古山 二郎	H20.2.15	25	宮坂 廣	H19.7.4	38	鮎沢 克巳	H18.9.19	47	宮坂 幸一	H18.2.11	51
久保 義幸	H19.8.29	27	山田 義雄	H19.4.18	38	伊東 久	H16.10.13	47	渡辺 和清	H19.1.29	51
酒井武之助	H11.11.6	28	中島 邦一	H18.2.7	39	小澤 享	H19.10.12	47	小池 文男	H19.4.7	52
茅野 慶次	H19.9.10	31	橋詰 実	H19.3.24	39	河西 君雄	H19.7.2	47	小海 孝造	H20.1.18	52
久保田 力	H19.3.7	32	山岡 利厚	H19.3.28	40	片岡 秀彦	H18.7.16	47	矢島 泉	H19.1.26	52
小池 次男	H18.10.1	32	小口 眞	H19.12.24	41	能勢 肇	H18.11.26	47	岩波 紀久	H19.10.27	56
中村 仁平	H19.5.3	32	柳澤理一郎	H19.8.31	41	今井 功	H19.3.20	48	窪田 衛	H19.6.2	56
原 和雄	H19.10.9	32	小川 源嘉	H18.7.26	42	岩波 辰巳	H19.4.7	48	守矢 重臣	H19.12.13	57
米山寅太郎	H19.4.19	32	小島 善夫	H18.12.30	42	佐藤 辰男	H19.4.22	48	大木征太郎	H20.1.14	60
宮阪 季晴	H19.6.6	33	関 昌直	H19.12.30	42	清水 健資	H19.8.4	48	立石 廣男	H19.6.9	60
河西 達夫	H10.3.17	34	大河内一樹	H19.6.25	43	樋口 好弘	H19.5.22	48	清水 一成	H20.2.5	61
赤羽 宇門	H19.1.12	35	帯川 要	H19.10.25	43	藤森 真武	H18.12.26	48	武井 慶吉	H18.12.16	61
島田 俊郎	H19.3.31	35	小松 清美	H18.12.9	43	山岡 伊織	H18.9.29	48	原 紀久男	H18.11.21	61
宮坂 廣雄	H19.11.3	35	杉村 保	H19.3.26	43	千野 厚	H19.5.6	49	宮坂啓之助	H19.4.2	62
木下 恒哉	H16.12.16	36	上田 達雄	H19.11.14	44	石城 從吉	H19.8.8	50	小松 清美	H18.12.9	65
窪田十寸穂	H19.5.7	36	金沢 道司	H18.6.27	44	植松 幹夫	H19.5.26	50	佐藤 良和	H18.8.28	70
浜 澄三	H20.1.23	36	上島 一成	H19.2.21	45	大谷 遙	H19.10.16	50	青木 明	H18.4.20	72
山田 利彦	H19.9.26	36	下島 邦弘	H19.4.29	45	降幡 和人	H20.2.22	50	征矢寿美子	H19.10.21	80
小口 正七	H18.10.16	37	矢島 彦一	H18.8.28	45	遠藤 智義	H20.2.21	51	平林 秀高	H20.2.19	80
永田国二郎	H16.12.18	37	川上湧太郎	H19.2.12	46	小野 文良	H20.2.21	51	五味 勇雄	H20.4.29	83
立木 糾	H18.5.18	38	鮎沢 章夫	H18.9.19	47						

事 務 局 だ よ り

◆3月1日の卒業式で第111回生241名を新正会員として迎え、4月4日(金)の入学式にて第114回生245名(内 女子105名)を迎えました。例年のように入学(と同時に同窓会入会)の記念として、会長のメッセージを添え「校歌」CDとビデオ「清水ヶ丘にうたう」を贈りました。また、4月17日(木)には恒例の道志社先輩ならびに物故会員慰霊法要が本堂改築中の地藏寺庫裏にて執り行われ会長ほか23名が参列。新本堂にての法要は平成22年とのこと。

◆平成19年度中の清陵OB文庫へ寄贈頂いた図書等は下記の通り。有難うございました。なお、上梓なされました節は、同窓会OB文庫へご恵贈頂けますれば幸甚です。

- ・飯沢文夫(72回)共著『東京都の図書館—三多摩編—』
- ・ " 編『地方史文献年鑑2003』『地方史文献年鑑2005』
- ・原 博一著『原博一・八面観セレクション』
- ・伊藤長七著『現代教育観』(復刻版)
- ・飯田忠義著『琵琶湖周航の歌—小口太郎と吉田千秋の青春—』
- ・武居幸重(57回)著『縄文のデザイン』『縄文心象』
- ・岩崎信子(62回)著『植物歌ごよみ』『女たちの信州』『かるいさわいろ』
- ・内田良子(64回)著『子育てはなぞとき』『幼い子のくらしとこころ』

◆学友会によって毎年発行されてきました『学友会誌』(戦時中2ヶ年は『報國團誌』、高校になって、学友会誌『清陵』)は、母校の歴史を知る資料の一つ。同窓会には校歌試作3篇が掲載されている第1号(明治36年発行)から現在までの各号が保存されていますが、肝心の学校(学校図書館)には揃っていない現状。殊に『清陵』第1号・第2号(同窓会保存用も破損著しい)をはじめ旧制諏訪中学校時代の『学友会誌』には欠本が多く、保存されていても破損が著しい状態。蔵書の整理の折、宜しかったらご寄贈頂ければ幸いです。同窓会事務局へご連絡下さい。

◆昨年は、寄贈図書にもありますが「琵琶湖周航の歌」が誕生して90年。そして今年は当同窓会も関わった「小口太郎顕彰碑」(岡谷市湊)の建立20周年を迎えるとのこと。昨年7月には、清陵OB清陵会有志によるフィックス艇による琵琶湖周航なども。また、「伊藤長七アーカイブス」記念フォーラムや諏訪市博物館「千野光茂」特別展などが開催され、母校の歴史の一端を思う一年でした。

◆平成20年度 学校同窓会係・事務局

・学校同窓会係：岩波文人(主任・78回) 平林義男(73回) 武居美博(77回) 今井 隆(83回) 奥村達朗(86回) 小宮山健司(87回) 井口智長(88回) 藤森秀則(88回) 細野勇治(学校事務長)

・事務局：武居浩明(56回、月曜日と金曜日に出勤) 小口修平(79回)

電話 0266-58-0356 FAX 0266-57-0348

E-mail dousoukai@suwaseiryo.jp

ホームページ <http://www.suwaseiryo.jp/>

編 集 後 記

昨年5月に会報編集を任された際には、伝統ある清陵同窓会報をはたして無事に発行できるのか、内心不安で一杯の船出でした。しかしながら、学年幹事の方々から今回の特集テーマ寄稿に対し、多士済々の方々を推薦していただき、原稿を依頼したほとんどの方々から寄稿していただくことが出来ました。また、編集委員も卒業後、初めて顔を合わせる仲間もいる状況の中、毎月のように開かれた編集委員会を通して、新たな同年生の連帯という資産を作ることが出来ました。

今回のテーマは海外経験に基づいた寄稿を募りました。48回生から103回生と半世紀余にわたる幅広い年代の同窓生からのメッセージは高度成長期から現代までの日本を振り返る意味でも貴重なものと思います。

終わりに同窓の先輩方、事務局の先生方、発送作業に携わった一年生の諸君、広告に協力してくださった企業の皆様に厚く御礼申し上げます。(文責 栗林利治) 編集委員：栗林利治、斉藤敦志、永由好一、野村光夫、細田直史、宮坂章、宮坂邦彦、宮坂好史、山岸尚志